

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バレエ&ダンス			
ザルツブルク音楽祭2012「ダンス&カルテット」	30	ザルツブルク音楽祭でデビュー後、毎年人気のハーゲン四重奏団が、チューリヒ・バレエ団と初コラボに挑戦。	<p>[演出]手紙のないしょ[音楽]レオシュ・ヤナーチェク:弦楽四重奏曲第2番『ないしょの手紙』[出演]セイ・ヤン・キム(チューリヒ・バレエ団)アーセン・メラヴィアン(スウェーデン王立バレエ団)</p> <p>[演出]スピルヴィルにて[音楽]アントニン・ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲第12番『アメリカ』Op.96[出演]イェン・ハン(チューリヒ・バレエ団)アーセン・メラヴィアン(スウェーデン王立バレエ団)</p> <p>[演出]死と乙女[音楽]フランツ・ペーター・シュベルト:弦楽四重奏曲第14番ニ短調『死と乙女』D.810[出演]サラ=ジェーン・プロドベック(チューリヒ・バレエ団)ティグラン・ミカイエリヤン(バイエルン国立バレエ)</p> <p>[振付]ハインツ・シュベルリ[出演]チューリヒ・バレエ団、ハーゲン四重奏団[収録]2012年7月フェルゼンライトシュレ「ザルツブルク音楽祭2012」[映像監督]アグネス・メス</p> <p>■全3部:約1時間36分</p>
ウィーン国立バレエ2014『白鳥の湖』	16,17,18,19,20,21,23,29	2010年秋、ウィーン国立バレエの初代芸術監督として招かれたマニュエル・ルグリ。奇跡的な成長を続けるバレエ団が美術や衣装も一新し、装いも新たに上演。	<p>[出演]オルガ・エシナ(オデット/オディール)ウラジーミル・シショフ(ジークフリート王子)エノ・ペシ(ロットバルト)ダグマール・クロンベルガー(女王)クリストフ・ヴェンツェル(家庭教師)ガポール・オベレッガー(執事)橋本清香、木本全優、アリス・フィレンツェ、グレイト・マシューズ(王子の友人たち)ガラ・ジョヴァノヴィッチ、オクサナ・キヤネンコ、ラウラ・ニストル、プリスカ・ツァイゼル(大きな白鳥たちの踊り)マリア・アラティ、イオアナ・アヴラム、玉井ルイ、エステル・レダーン(小さな白鳥たちの踊り)オクサナ・キヤネンコ、フラヴィア・ソアレ、アレクサンドル・トカチェンコ、アンドレイ・テテリン(スペインの踊り)橋本清香、リチャード・サボー(ナポリの踊り)アリーナ・クロシュコヴァ、アレクシス・フォラボスコ(ポーランドの踊り)アリス・フィレンツェ、ミハイル・ソスノフスキー(ハンガリーの踊り)マリア・アラティ、イオアナ・アヴラム、エステル・レダーン、レイナ・サワイ、玉井ルイ、ニーナ・トノーリ(若い貴婦人たち)ウィーン国立バレエ団、ウィーン国立歌劇場バレエ学校の生徒たち</p> <p>[振付&演出]ルドルフ・ヌレエフ[オリジナル振付]マリウス・ブティバ&レフ・イワノフ[再演出]マニュエル・ルグリ、アリス・ネシア、ルーカス・ガウデルナク、ジャン・クリストフ・ルサージュ[装置&衣裳]ルイザ・スピナテリ[照明]マリオン・ヒューレット[指揮]アレクサンダー・イングラム[演奏]ウィーン国立歌劇場管弦楽団[収録]2014年3月ウィーン国立歌劇場[映像監督]ミハエル・ペイヤー</p> <p>■全4幕:約2時間14分</p>
ウィーン国立バレエ2016『ドン・キホーテ』	23,24,25,26,27,28,29,30	スペインの情緒とクラシック・バレエの幻想世界が巧みに織り交ぜられた、愉快な傑作。難易度の高いヌレエフ版を、マニュエル・ルグリ率いるウィーンの名門が再演。	<p>[音楽]ルートヴィヒ・アロイジウス・ミンクス[台本]マリウス・ブティバ[原作]ミゲル・デ・セルバンテス・サアベドラの小説『ドン・キホーテ』</p> <p>[振付&演出]ルドルフ・ヌレエフ[芸術監督]マニュエル・ルグリ[装置&衣裳]ニコラス・ジョージアディス[照明]マルク・アンロシュト[管弦楽編曲]ジョン・ランチベリー[指揮]ケヴィン・ローズ[演奏]ウィーン国立歌劇場管弦楽団</p> <p>[出演]マリア・ヤコヴレフ(キトリ&ドゥルシネア姫)デニス・チェリエヴィチコ(バジル)カミル・パヴェルカ(ドン・キホーテ)クリストフ・ヴェンツェル(サンチョ・パンサ)ガポール・オベレッガー(ロレンツォ)アンドレイ・カイダノフスキー(ガマーシュ)ケテヴァン・パバヴァ(街の踊り子)ロマン・ラツィック(エスパーダ)オルガ・エシナ(森の女王)橋本清香(アモール)ニーナ・トノーリ、アリス・フィレンツェ(キトリの友人)ミハイル・ソスノフスキー、レベッカ・ホーナー、エリカ・コヴァー・チョヴァー(ロマたち)イーゴリ・ミロス、ベアータ・ヴィードナー(年寄いたロマ)ガラ・ジョヴァノヴィッチ、ラウラ・ニストル、オクサナ・キヤネンコ(3人の森の精霊(ドリアード)たち)ナターシャ・マイヤー(花嫁の付き添い)ウィーン国立バレエ団、ウィーン国立バレエ学校の生徒たち</p> <p>[収録]2016年5月28日&31日ウィーン国立歌劇場[映像監督]ミハエル・ペイヤー</p> <p>■プロローグ & 全3幕:約2時間4分</p>
ネザールランド・ダンス・シアター『ウイングス・オブ・ワックス』	12,13,14,16,17,18	鬼才振付家イリ・キリアンがイカロスの翼の神話から想を得た1997年初演作品を、オランダの名門コンテンポラリー・ダンス・カンパニーがテレビ用に再演。	<p>[出演]ネザールランド・ダンス・シアターI(ヴィルジニー・マルティナ、オレリー・カイヤ、リディア・バスティンドウイ、ヴァレンティーナ・スカーリア、ルーカス・ティムラック、ステファン・ゼロムスキー、パトリック・マリン、バスター・ズルゼット)[コンセプト&振付]イリ・キリアン[音楽]ハインリヒ・イグナツ・フランツ・フォン・ビーバー:無伴奏ヴァイオリンのためのパッサカリヤ、ジョン・ケージ:瞑想への前奏曲、フィリップ・グラス:弦楽四重奏曲第5番~第3楽章、ヨハン・セバスティアン・バッハ/ドミトリー・シトコヴェツキー編曲:ゴルトベルク変奏曲~第25変奏(弦楽三重奏版)[衣裳]ヨーク・ヴィセル[装置&照明]ミハエル・シモン[収録]2008年10月19日ネザールランド・ダンスシアター・ホール(ハーグ)[映像監督]ハンス・フルシャー</p> <p>■全1幕:約25分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ネザールランド・ダンス・シアター『カー・メン』	19,20,21,23,24	スラップスティックの動きの向こうに、カルメンの運命が横たわる。鬼オイリ・キリアン振付とNDTのダンサーによる斬新でブラックな映像作品。	[出演]ザビーネ・クプファーベルク(カルメン)ジョコンダ・バルプト(ミカエラ)ダヴィッド・クリューゲル(エスカミーリョ)カレル・フルスカ(ドン・ホセ)ネザールランド・ダンス・シアター [振付]イリ・キリアン[音楽]ハン・オッテン(ジョルジュ・ビゼーの歌劇『カルメン』を基に)[衣裳]ステファニー・マリエン[撮影]ヴァルター・ヴァンデン・エンデ[編集]ジェフ・ヘルトグス[監督]ボリス・パヴァル・コーネン[制作]2006年 ■約28分
バーゼル市立バレエ『リーズの結婚』	2,3,4		[振付]ハインツ・シュペルリ[原振付]ジャン・ドールベルヴァル[音楽]ルイ・ジョゼフ・フェルディナン・エロール、ピーター・ルートヴィヒ・ヘルテル [指揮]ジョン・ランチベリー[演奏]ウィーン交響楽団[出演]ヴァレンティナ・コズロワ(リーズ)クリス・イェンセン(コーラ)オットー・リス(リーズの母)ヴェルナー・ヘンスラー(召使い)ハインツ・シュペルリ(アランの父)マルティン・シュレプファー(アラン)[映像収録]1986年8月25日～9月10日西ドイツ放送局スタジオ(ケルン) [映像監督]ホセ・モンテ=バケ
ウィーン国立歌劇場バレエ『ヨーゼフの伝説』	2,3,4,5,6,7,8,9,15	1942年米国生まれ。ダンサーとして英国ロイヤル・バレエ学校に学び、所属したシュトゥットガルト・バレエ団で振付家に転身。フランクフルト・バレエ団芸術監督を経て、1973年より現在まで長きにわたりハンブルク・バレエ団芸術監督を務めるジョン・ノイマイヤー。彼の振付作品の特徴は、「名作文学のバレエ化」「古典バレエの新演出／新解釈」「音楽を視覚化するシンフォニック・バレエ」。この番組は、彼の初期における「古典バレエの新演出／新解釈」の代表作です。	[出演]ケヴィン・ヘイゲン(ヨーゼフ)ジュディス・ジャミソン(ポティファルの妻)カール・ムジル(天使)フランツ・ヴィルヘルム(ポティファル)他 [振付 & 演出 & 映像監督]ジョン・ノイマイヤー[美術 & 衣裳]エルンスト・フックス[音楽]リヒャルト・シュトラウス[指揮]ハインリヒ・ホルライザー[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[映像収録]1977年8月17日～28日ウィーン・フィルム & ローゼンヒューゲル[音声収録]1977年6月13日～14日ウィーン・フィルム & ジーフェリング ■約1時間7分
アメリカン・バレエ・シアター『ジゼル』	1,2	イタリアの至宝カルラ・フラッチ全盛期の映像。無邪気なジゼルと錯乱のジゼル、精霊のジゼルを演じ分ける豊かな表情が見どころ。アルブレヒトはデンマークが生んだ最大のスター、エリック・ブルーネ。	[出演]カルラ・フラッチ(ジゼル)エリック・ブルーネ(アルブレヒト)ブルース・マークス(ヒラリーオン)トニ・ランダー(ミルタ)エレアノール・ダン・トウオノ & テッド・キヴィット(ベザント・パド・ドゥ)アメリカン・バレエ・シアター[振付 & 演出]デイヴィッド・ブレア[オリジナル振付]ジェーン・コラリ & ジュール・ペロー[音楽]アドルフ・アダン[装置]ジョルジュ・ワケヴィッチ、B.パレスター[衣裳]P.ホール、J.レスッチ[指揮]ジョン・ランチベリー[演奏]ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団[映像収録]1968年10月～11月ブロンストン・スタジオ(マドリッド)[音声収録]1968年9月UFAスタジオ(ベルリン)[映像監督]フーゴ・ニーベリング ■全2幕:約1時間32分
バレエ『鉛の夜』～ハンス・ヘニー・ヤーンの小説にもとづく	1	ドイツの作家ハンス・ヘニー・ヤーン(1894-1958)最後の作品『鉛の夜』を、ドイツの作曲家ハンス=ユルゲン・フォン・ボーゼ(1953-)が音楽化。その音楽を鬼オハインツ・シュペルリと音楽映画の大家ペーター・ヴァイクルが映像化。バレエというジャンルでは括れない、クラシカ・ジャパンでしか見ることができない珍しい番組。	[出演]リュボミール・カフカ(マチウ)マダレーナ・ヴァシャリョーバ(エルヴィラ)ミヒャエル・ピーン(フランツ)ガポール・ケヴェハージ(天使)他 [振付]ハインツ・シュペルリ[原作]ハンス・ヘニー・ヤーンの小説『鉛の夜』[音楽]ハンス=ユルゲン・フォン・ボーゼ[指揮]マティアス・パメルト[演奏]南西ドイツ放送交響楽団[監督]ペーター・ヴァイクル[制作]1985年 ■字幕:約1時間7分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バレエ『ルスランとリュドミラ』	5,6,7,9,10	「近代ロシア音楽の祖」格林カの有名なオペラのバレエ版。有名な序曲からエンディングまで、愛と冒険に満ちたロシアのおとぎ話を楽しむ音楽とバレエで綴られる。ソリストからコール・ド・バレエまで美しく迫力の振付、そして華やかな舞台美術と衣装など見どころ満載。	<p>[振付]アンドレイ・ペトロフ [原振付]ミハイル・フォーキン[音楽]ミハイル・イヴァノヴィチ・格林カ：歌劇『ルスランとリュドミラ』、ウラディ斯拉フ・アガフォンニコフ[原作]アレクサンドル・プーシキンの物語詩『ルスランとリュドミラ』 [ストーリー]キエフ大公の娘リュドミラとルスランの婚礼の場で、魔術師チェルノモールがリュドミラを誘拐する。大公は、ルスランと彼女に恋する若者2人に、「リュドミラを助けた者を娘と結婚させる」と宣言。最後はルスランがリュドミラを連れ戻し、2人はめでたく結ばれる。 [出演]オレグ・コルゼンコフ(ルスラン) アナスタシア・ノボキナ(リュドミラ) ワジム・ムルジン(キエフ大公) サイアト・アサトリアン(ラトミール) ワジム・デデーエフ(ファルラーフ) スヴェトラナ・ツォイ(ゴリスラーヴァ) スヴェトラナ・ロマノヴァ(ナイーナ) ワジム・クレメンスキー(チェルノモール) イリヤ・オシノフスキー(フィン) チムール・ガレーエフ、アレクサンドル・イゾセンコフ、アリシェール・サブロフ(ペテン師) エレーナ・ザヴォロンコーヴァ、ザンナ・ボゴロディスカヤ(魔女) エレーナ・シュヴァローヴァ、ユリア・スルメネーヴァ、アレクサンドル・イゾセンコフ、アリシェール・サブロフ(アラビアの踊り) アンドレイ・ベレジン、イリヤ・クズミン、セルゲル・ステュルコフ(チェルノモールの家来) クレムリン・バレエ劇団 [装置 & 衣裳]ウラディーミル・パユソチェンコ[照明]ヴィクトール・クリュンジン [収録]1993年国立クレムリン宮殿劇場[映像監督]オレグ・グリゴローヴィチ ■全5幕：約1時間54分</p>
ポリショイ・バレエ・イン・ロンドン1956	26,27,28,30	西側ではその全貌が知られていなかったモスクワのポリショイ・バレエ団が、1956年10月にロンドンで行った歴史的公演。20世紀の伝説的バレリーナ、ガリーナ・ウラノワの当たり役であるミハイル・フォーキン振付『瀕死の白鳥』とレオニード・ラヴロフスキー版『ジゼル』を見ることができる貴重映像です。	<p>[演目]バレエ『パフチサライの泉』～「ダッタン人の兵士たちの踊り」[振付]ロスティ斯拉フ・ザハーロフ[音楽]ボリス・アサフィエフ[出演]M・ポイツフ、A・クラレフスキー、S・ヤゲージン、ポリショイ・バレエ団 [演目]バレエ『白鳥の湖』～「スペイン人の踊り」[振付]アレクサンドル・ゴールスキー[音楽]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー[出演]S・ズヴァギーナ、A・ネルセンワ、ヤロスラフ・セフ、G・シトニコフ、ポリショイ・バレエ団 [演目]バレエ『春の洪水』* [振付]アサフ・メッセレル[音楽]セルゲイ・ラフマニノフ：歌曲『春の奔流』Op.14-11[出演]L・ボゴモロワ、S・ヴラソワ、ポリショイ・バレエ団 [演目]歌劇『イワン・スサーニン』～「ポロネーズとクラコヴィアク」* [振付]ロスティ斯拉フ・ザハーロフ[音楽]ミハイル・格林カ[出演]Y・サンゴヴィッチ、S・ズヴァギーナ、M・コルバクチ、V・ペトロワ、アレクサンドル・ラドゥンスキー、ウラジミール・レワシェフ、K・リフテル、ポリショイ・バレエ団 [演目]歌劇『ファウスト』～「ワルプルギスの夜」* [振付]レオニード・ラヴロフスキー[音楽]シャルル・フランソワ・グノー[出演]ライサ・ストルチコワ、アレクサンドル・ラバウリ、G・ファルマニヤンツ、A・トルシュキン、T・ヴェブロワ、M・ゴットリーブ、Z・コロタエフ、ポリショイ・バレエ団 [演目]バレエ『瀕死の白鳥』[振付]ミハイル・フォーキン[音楽]カミーユ・サン＝サーンス：組曲『動物の謝肉祭』～第13曲「白鳥」[出演]ガリーナ・ウラノワ [演目]バレエ『ジゼル』* [音楽]アドルフ・アダン[振付]レオニード・ラヴロフスキー[オリジナル振付]ジャン・コラリ&ジュール・ペロー、マリウス・プティパ[出演]ガリーナ・ウラノワ(ジゼル)、ニコライ・ファジェーチェフ(アルプレヒト)、T・モナホーフ、アレクサンドル・ラドゥンスキー、ポリショイ・バレエ団 [指揮]ゲンナジー・ロジエストヴェンスキー、ユーリ・ファイエル(*) [演奏]コヴェント・ガーデン王立歌劇場管弦楽団、ポーンマス交響楽団[収録]1956年10月デイヴィス劇場(クロイドン) / 『ジゼル』[収録]1956年10月25日コヴェント・ガーデン王立歌劇場(ロンドン)[映像監督]パウル・ツィンナー ■約1時間37分</p>

オペラ

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
アレーナ・ディ・ヴェローナ2014『仮面舞踏会』	21,23,24,25,26,27,28	この番組は、世界遺産の街ヴェローナにある古代ローマ遺跡の円形闘技場アレーナで、1913年より毎年夏に行われる野外オペラフェスティバルの2014年唯一の新制作となる開幕公演。 指揮は、1987年ヴェローナ生まれのアンドレア・バッティストーニ。イタリアの未来と期待される若き才能で、日本でも2015年4月より東京フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者を務める人気指揮者です。地元アレーナでの指揮は4年目となるバッティストーニの緊張感あふれる音楽作りは注目です。	[出演]フランチェスコ・メーリ (リカルド/テノール) ヘー・ホイ (アメリア/ソプラノ) ルカ・サルシ (レナート/バリトン) エリザベッタ・フィオリッロ (ウルリカ/メゾ・ソプラノ) セレーナ・ガンベローニ (オスカル/ソプラノ) ウィリアム・ゴッロ (シルヴァーノ/バス) チェ・スンピル (サムエル/バス) デヤン・ヴァチエコフ (トマーソ/バス) アントニオ・フェルトラッコ (判事/テノール) サヴェリオ・フィオーレ (アメリアの召使/テノール) アレッシア・ゲルメッティ&エフゲニー・クルツェフ (バレエ) アレーナ・ディ・ヴェローナ舞踊団 [演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：3幕のメロドラマ『仮面舞踏会』[台本]アントーニオ・ソンマ[原作]ウジェーヌ・スクリーブの悲劇『ギユスターヴ3世、または仮面舞踏会』[演出]装置・衣裳]ピエル・ルイジ・ピッツィ[照明]ヴァンチエンツォ・ラポーニ[振付]レナート・ザネッラ [指揮]アンドレア・バッティストーニ[演奏]アレーナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団及び同合唱団[合唱指揮]アルマンド・タッソ [収録]2014年6月20日アレーナ・ディ・ヴェローナ[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕/全3幕：約2時間26分
サン・カルロ歌劇場2012『椿姫』	24,25,26,27	ミケーレ・マリ奥特ティ指揮の説得力の強いノーカット版。人間の心の闇を描いた映画監督フェルザン・オズベテク演出。ヒロインはカルメン・ジャンナッタージョ。	[出演]カルメン・ジャンナッタージョ (ヴィオレッタ/ソプラノ) サイミール・ビルグ (アルフレード/テノール) ウラディーミル・ストヤノフ (ジェルモン/バリトン) ジュゼッピーーナ・プリデッリ (フロラ/メゾ・ソプラノ) ミケーラ・アンテヌッチ (アンニーナ/メゾ・ソプラノ) フェデリコ・レブレ (ガストン/テノール) ニコロ・チェリアーニ (ドゥフォール/バリトン) アレッサンドロ・パッティアート (ドビニー/バス) ジャンルカ・ブレダ (グランヴィル/バリトン) ジュゼッペ・ヴァレンティーノ (ジュゼッペ/テノール) セルジオ・ヴァレンティーノ (フロラの召使/バス) カルミネ・デュランテ (手紙を取り次ぐ男/バス) サン・カルロ歌劇場バレエ団 [演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：3幕のメロドラマ『ラ・トラヴィアータ (道を踏み外した女)』[台本]フランチェスコ・マリア・ピアヴェ[原作]アレクサンドル・デュマ・フィスの戯曲『椿の花を持つ女』[演出]フェルザン・オズベテク[装置]ダンテ・フェレッティ[衣裳]アレッサンドロ・ライ[照明]ジュゼッペ・ディ・ロリオ[振付]アレッサンドラ・パンツァヴォルタ[指揮]ミケーレ・マリ奥特ティ[演奏]サン・カルロ歌劇場管弦楽団及び同合唱団[合唱指揮]サルヴァトーレ・カブート[収録]2012年12月5日サン・カルロ歌劇場 (ナポリ) [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕/全3幕：約2時間11分
ブレゲンツ音楽祭2013『魔笛』	2,3,4,5,6,7,15	冒頭の序曲から、劇場では不可能な野外ならではの、奇想天外な演出に目が離せない！ 大掛かりな装置で知られるオーストリアの湖上音楽祭「ブレゲンツ音楽祭」で、2013年に話題を呼んだ『魔笛』。舞台となる湖上に浮かぶ島、その周りに煙を吐く3匹の怪獣。火や花火も随所に使われ、アクロバット隊も活躍。3匹の怪獣の間には吊り橋も。夜の女王は数メートルもの高さにリフトアップされます。	[出演]アルフレート・ライター (ザラストロ/バス) アナ・ドゥルロフスキ (夜の女王/ソプラノ) ノーマン・ラインハルト (タミーノ/テノール) ヘルナルダ・ポプロ (パミーナ/ソプラノ) ダニエル・シュムツツハルト (パバゲーノ/バリトン) デニーゼ・ベック (パバゲーナ/ソプラノ) マグダレーナ・アンナ・ホフマン (第1の侍女/ソプラノ) フェレーナ・グンツ (第2の侍女/メゾ・ソプラノ) カトリン・ヴントザム (第3の侍女/メゾ・ソプラノ) ライラ・ザロメ・フィッシャー (第1の童子/ソプラノ) エファ・ドヴォルシャク (第2の童子/ソプラノ) ディムフナ・マイイツ (第3の童子/メゾ・ソプラノ) マルティン・コッホ (モノスタス&第1の武装した者/テノール) アイケ・ヴィルム・シュルテ (弁者&第2の武装した者/バリトン) エレフテリオス・クラット (僧侶/台詞) [演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：2幕のジグシュピール『魔笛』[台本]エマヌエル・シカネーダー[演出]デイヴィッド・バウントニー[装置]ヨハン・エンゲルス[衣裳&人形デザイン]マリ=ジャンヌ・レッカ[スタント&アクション指導]ラン・アーサー・ブラウン[人形操作]ブラインド・サミット・シアター (マーク・ダウン、ニック・バーンズ) [照明]ファブリス・ケブール[音響デザイン]ヴォルフガング・フリッツ [指揮]パトリック・サマーズ[演奏]ウィーン交響楽団、プラハ・フィルハーモニー合唱団[合唱指揮]ルカーシュ・ヴァシレク [収録]2013年7月コンスタンツ湖上舞台 (ブレゲンツ) 「ブレゲンツ音楽祭2013」 [映像監督]フェリックス・フライザハ ■字幕/全2幕：約2時間31分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
オペラ映画『マクベス』	27,30	シェイクスピアに傾倒していたヴェルディが初めて彼の戯曲をオペラ化。登場人物の心理に深く踏み込んだ『マクベス』は、これまでの美しい声だけが要求されたオペラを拒み、例えばマクベス夫人には邪悪さと悪声を要求するなど、登場人物の性格や感情をそのまま音楽で表現する「音楽とドラマの一致」を目指した画期的な作品です。	<p>[出演]レオ・ヌッチ（マクベス／バリトン） シャーリー・ヴァーレット（マクベス夫人／メゾ・ソプラノ）ヨハン・レイゼン（バンクォー＜歌唱＞サミュエル・レイミー／バス） フィリップ・ヴォルター（マクダフ＜歌唱＞ヴェリアーノ・ルケッティ／テノール） アンナ・カテリーナ・アントナッチ（侍女／メゾ・ソプラノ） アントニオ・バラソルダ（マルコム／テノール） ニコラ・サンシエ（フレアンツィオ／黙役） セルジョ・フォンタナ（医師／バス） グレゴワール・バルダリ（従者＜歌唱＞ジャンフランコ・カザリーニ／バス） アラン・バスカル・ウシオー（刺客＜歌唱＞ガストーネ・サルティ／バス） ジジ・ピュロー、アンヌ・ベルトラン、ダイアン・プロマン、ローレンス・ピュッソン、アグネス・デイヴィッド、カトリーヌ・デュボワ、アルレッテ・エメリ、デニス・グドムンジエト、マリアンヌ・グートマン、ヴィットリア・スコグナミッリオ（魔女）</p> <p>[演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：4幕のメロドラマ『マクベス』[台本]フランチェスコ・マリア・ピアヴェ、アンドレア・マッフェイ[原作]ウィリアム・シェイクスピアの悲劇『マクベス』[監督&脚色]クロード・ダンナ[撮影]ピエール・デュブレ[装置]エリック・サイモン[衣裳]ディディエ・サンデリヒン[編集]マンフレッド・グレーター</p> <p>[指揮]リカルド・シャイー[演奏]ボローニャ市立歌劇場管弦楽団及び同合唱団</p> <p>[合唱指揮]フルヴィオ・アングィウス[音声収録]1986年ボローニャ[映像収録]1986年ブイオン城（ベルギーのアルデンヌ県） [制作]1987年</p> <p>■字幕／全4幕（映画版）：約2時間14分</p>
モンテヴェルディ生誕450年～ガーディナーの『オルフェオ』	8	現在でも上演されている現役最古のオペラ。ガーディナーが自らの原点モンテヴェルディの生誕450年に挑んだ、オペラ全3作一挙上演の記録！	<p>[出演]クリスティアン・アダム（オルフェオ／テノール） ハナ・ブラシコヴァ（エウリディーチェ&音楽／ソプラノ） リュシール・リシャルド（使者／アルト） フランチェスカ・ボンコンパーニ（プロセルピナ／ソプラノ） ジャンルカ・ブラット（カロンテ&プルターネ／バス） カンミン・ジャスティン・キム（希望／カウンターテナー） フリオ・ザナージ（アポロ／バリトン） フランシスコ・フェルナンデス＝ルエダ（羊飼いのI／テノール） ガレス・トレシダー（羊飼いのII & 地獄の霊 I & エコー／テノール） ジョン・テイラー・ウード（羊飼いのIV & 地獄の霊 III／バリトン） ミハウ・チェルニアフスキ（羊飼いのIII／カウンターテナー） ザカリー・ワイルダー（地獄の霊 II／テノール） アンナ・デニス（ニンファ／ソプラノ）</p> <p>[演目]クラウディオ・モンテヴェルディ：プロローグ&5幕のファーヴォラ・イン・ムージカ『オルフェオ』[台本]アレクサンドロ・ストリッジ[原作]ギリシャ神話</p> <p>[演出]ジョン・エリオット・ガーディナー、エルサ・ルーク[衣裳]パトリシア・ホーフシュテデー[照明]リック・フィッシャー</p> <p>[指揮]ジョン・エリオット・ガーディナー[演奏]イングリッシュ・バロック・ソロイスツ、モンテヴェルディ合唱団</p> <p>[収録]2017年6月19日フェニーチェ歌劇場（ヴェネツィア）[映像監督]セバステアン・グラス</p> <p>■字幕／プロローグ&全5幕：約2時間1分</p>
モンテヴェルディ生誕450年～ガーディナーの『ウリッセの帰還』	8	70歳を超えたモンテヴェルディが描いた円熟作。生誕450年を祝って作曲家ゆかりの地ヴェネツィアで上演されたオペラ全3作一挙上演の記録！	<p>[出演]アリオ・ザナージ（ウリッセ／バリトン） リュシール・リシャルド（ベネーロペ／アルト） クリスティアン・アダム（テレマコ／テノール） ハナ・ブラシコヴァ（運命&ミネルヴァ／ソプラノ） ジャンルカ・ブラット（時&ネットウーノ&アンティノー／バス） シルヴィア・フリガート（愛／ソプラノ） カロ・ヴィストーリ（人間のはかなさ／カウンターテナー） ミハウ・チェルニアフスキ（ピサンドロ／カウンターテナー） ガレス・トレシダー（アンフィノモ／テノール） ザカリー・ワイルダー（エウリーマコ／テノール） アンナ・デニス（メラント／ソプラノ） ジョン・テイラー・ウード（ジョーヴェ／バリトン） フランチェスカ・ボンコンパーニ（ジュノーネ／ソプラノ） ロバート・パート（イーロ／テノール） フランシスコ・フェルナンデス＝ルエダ（エウメーテ／テノール） フランチェスカ・ビオッティ（エリクレア／アルト）</p> <p>[演目]クラウディオ・モンテヴェルディ：プロローグ&3幕のドラマ・ベル・ムージカ『ウリッセの帰還』[台本]ジャーコモ・バドアーロ[原作]ホメロスの叙事詩『オデュッセイア』[演出]ジョン・エリオット・ガーディナー、エルサ・ルーク[衣裳]パトリシア・ホーフシュテデー[照明]リック・フィッシャー</p> <p>[指揮]ジョン・エリオット・ガーディナー[演奏]イングリッシュ・バロック・ソロイスツ、モンテヴェルディ合唱団</p> <p>[収録]2017年6月20日フェニーチェ歌劇場（ヴェネツィア）[映像監督]セバステアン・グラス</p> <p>■字幕／プロローグ&全3幕：約3時間18分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
モンテヴェルディ生誕450年～ガーディナーの『ボッペアの戴冠』	8	凄まじいまでの人間の欲望を巧みな音楽で描き切ったオペラ史上初の歴史物。ガーディナーが自らの原点モンテヴェルディの記念年に挑んだ、作曲家最後の作品！	[出演]ハナ・ブラシコヴァ（ボッペア&運命/ソプラノ）カンミン・ジャスティン・キム（ネローネ/カウンターテナー）マリアンナ・ピッツォラート（オッターヴィア/メゾ・ソプラノ）ジャンルカ・ブラット（セネカ/バス）カルロ・ヴィストーリ（オットーネ/カウンターテナー）アンナ・デニス（ドゥルジツラ&美德&パッラーデ/ソプラノ）リュシール・リシャルド（アルナルタ&ヴェーネレ/アルト）シルヴィア・フリガート（愛&ヴァレット/ソプラノ）フリオ・ザナージ（兵士Ⅰ&リベルト/バリトン）ガレス・トレンダー（家族/テノール）ザカリ・ワイルダー（ルカーノ/テノール）フランチェスカ・ボンコンパーニ（ダミゼッラ/ソプラノ）ジョン・テイラー・ウード（メルクーリオ/バリトン）ミハウ・チェルニアフスキ（ヌートリチェ/カウンターテナー）ロバート・バート（兵士Ⅱ/テノール） [演目]クラウディオ・モンテヴェルディ：プロローグ&3幕のドラマ・ムジカレ『ボッペアの戴冠』[台本]ジョヴァンニ・フランチェスコ・ブゼネッロ[原作]タキトウスの『年代記』に基づく[演出]ジョン・エリオット・ガーディナー、エルサ・ルーク[衣裳]パトリシア・ホーフシュテデー[照明]リック・フィッシャー [指揮]ジョン・エリオット・ガーディナー[演奏]イングリッシュ・バロック・ソロイスト、モンテヴェルディ合唱団 [収録]2017年6月25日フェニーチェ歌劇場（ヴェネツィア）[映像監督]セバスティアン・グラス ■字幕/プロローグ&全3幕：約3時間15分
マリエツラ・デヴィーアの『椿姫』	7,9,10,11,12,13,14,22	ヨーロッパ夏の音楽祭「マチエラータ・オペラ・フェスティバル」2009年公演より、不世出の名ソプラノ、マリエツラ・デヴィーアの堂々たるヴィオレッタ！	[出演]マリエツラ・デヴィーア（ヴィオレッタ/ソプラノ）アレハンドロ・ロイ（アルフレード/テノール）ガブリエレ・ヴィヴィアーニ（ジェルモン/バリトン）ガブリエッラ・コレッキア（フローラ/メゾ・ソプラノ）シルヴィア・ジャンネッティ（アンニーナ/ソプラノ）エンリコ・コッスツタ（ガストーネ/テノール）ジャコモ・メディチ（ドゥフォル/バリトン）ウィリアム・コッロ（ドビニー/バス）ルカ・ダッラミーコ（グランヴィル/バス）ネナド・コンカール（ジュゼッペ/テノール）ジャンニ・パーチ（フローラの従僕/バス）ロリス・マノーニ（使い/バス） [演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：3幕のメロドラマ『ラ・トラヴィアータ（道を踏み外した女）』[台本]フランチェスコ・マリア・ピアヴェ[原作]アレクサンドル・デュマ・フィスの戯曲『椿の花を持つ女』[演出・美術・衣裳]マッシモ・ガスパロン[照明]セルジオ・ロッシ[振付]ロベルト・マリア・ピッツート[指揮]ミケーレ・マリオッティ[演奏]マルケ地方財団管弦楽団、ヴィンチエンツォ・ベッリニ・マルキジアーノ歌劇合唱団、サルヴァディ（舞台上の吹奏楽団）[合唱指揮]ダヴィド・クレシェンツィ[収録]2009年7月アレーナ・スフェリステリオ（マチエラータ）「マチエラータ・オペラ・フェスティバル2009」[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕/全3幕：2時間20分（番組枠）
ルイ14世による『夜のバレ・ロワイヤル』	14,15,16,17,18,19,20,21,29	ルイ14世が「太陽王」と呼ばれる所以となった、1653年2月23日に王自らも踊った「夜のバレ」を再構築。奇抜な衣裳やモダンなツールで、17世紀の舞台スペクタクルが甦る！	[出演]ショーン・パトリック・モンブルノ（太陽神/ダンサー）ルシール・リシャルド（夜、イタリアのヴィーナス/メゾ・ソプラノ）ヴィオレーヌ・ル・シュナデク（時、シンシア、フランスの美神/ソプラノ）カロリーヌ・ウエイナ（エウリディーチェ、フランスの美神/ソプラノ）イレクタ・プラティオブル（ジュノ/メゾ・ソプラノ）カロリーヌ・ダンジャン・バルド（ヴィーナス、沈黙/ソプラノ）ユディット・ファ（パーシテアー、ムネモシネ/ソプラノ）デボラ・カシェ（月、デジャニール、フランスの美神、ペレーザ/ソプラノ）ダヴィド・トリク（アポロ、オーロラ/テノール）ダヴィ・コルニコ（エンデュミオン/テノール）エティエンヌ・バゾラ（眠り/バス）ルノー・プレ（ヘラクレス/バス）ニコラ・ブルーイマン（偉大な生贄/バス）アクトバット、ジャグラ、子供たち 他 [演目]イザーク・ド・ベンセラデーの『夜のバレ・ロワイヤル』に基づく若き太陽王のためのディヴェルティスマン[音楽]ジャン・ド・カンブフォール/ルイ・コンスタンタン/ルイージ・ロッシ/フランチェスコ・カヴァリ/アントワーヌ・ポエソ/ミシェル・ランペール[演出・装置・衣裳・振付]フランチェスカ・ラットウアーダ[照明]クリスチャン・デュベ[指揮]セバスティアン・ドセ[演奏]アンサンブル・コレスポンダンス[収録]2017年11月11日&12日カーン劇場（フランス）[映像監督]フランソワ・ルネ・マルタン ■字幕/全4部：3時間25分（番組枠）
ウィーン国立歌劇場2019『トスカ』	2,22	なんと600回以上も繰り返し上演され続けるウィーン国立歌劇場を代表する人気プロダクション。奇をてらわないオーソドックスな演出とスター歌手を心ゆくまで堪能。	[出演]カリーネ・ババジャン（フローリア・トスカ/ソプラノ）ピョートル・ベチャワ（マリオ・カヴァラドッシ/テノール）カルロス・アルバレス（スカルピオ男爵/バリトン）ソリン・コリバン（チェーザレ・アンジェロッティ/バス）アレクサンドル・モイシウク（堂守/バス）ヴォルフラム・イゴール・デルントル（スポレッタ/テノール）ハンス・ペーター・カンメラー（シャルローネ/バス・バリトン）アイク・マルティロシアン（看守/バス）マリアム・タホン（牧童/オペラ学校の生徒） [演目]ジャコモ・プッチーニ：3幕のメロドラマ『トスカ』[台本]ジュゼッペ・ジャコーザ&ルイージ・イルリカ[原作]ヴィクトリアン・サルドゥーの戯曲『トスカ』[演出]マルガレーテ・ヴァルマン[装置&衣裳]ニコラ・ブノワ[指揮]マルコ・アルミリアート[演奏]ウィーン国立歌劇場管弦楽団及び同合唱団、同舞台オーケストラ、ウィーン国立歌劇場オペラ学校の生徒たち[合唱指揮]マルティン・シベスタ[収録]2019年6月23日ウィーン国立歌劇場 ■字幕/全3幕：2時間30分（番組枠）

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
メサジェ『可愛いミシュ』	8,21	オペレッタの再評価が進むフランスで蘇った、小粋な名作。ミシュ家の可愛い二人娘の出生の秘密をめぐって、個性豊かな登場人物たちが繰り広げる愛と笑いに満ちた物語。	<p>[出演]喜歌劇団「レ・プリガン」:アンヌ=オロール・コシェ(ブランチュ=マリー/ソプラノ)ヴィオレット・ポルシ(マリー=ブランチュ/メゾ・ソプラノ)フィリップ・エステフ(ガストン大尉/バリトン)マリー・ルノルマン(マダム・ミシュ/メゾ・ソプラノ)ダミアン・ビグルダン(ムッシュ・ミシュ/テノール)ボリス・グラッペ(レ・ジフ侯爵・将軍/バリトン)アルタヴァスト・サルキシャン(店員アリストイード/テノール)ロマン・ダイエ(伝令兵バニョレ/バリトン)カロリーヌ・マンガ(教師マドモアゼル・エルバン/メゾ・ソプラノ)</p> <p>[演目]アンドレ・メサジェ:オペレッタ『可愛いミシュ』[台本]アルベール・ヴァンロー、ジョルジュ・デュヴァル[演出]レミ・バルシェ[装置]サルマ・ポルド[衣裳]オリア・ステーンキスト</p> <p>[照明]フローラン・ジャコブ[イラストレーション]マリアンヌ・トリコー[映像]ステファン・ポルドナロ[指揮]ピエール・デュムソー[演奏]ロワール地方国立管弦楽団&アンジェ・ナント・オペラ合唱団[合唱指揮]フレデリック・ジュネ</p> <p>[収録]2018年5月23日・24日グララン劇場(フランス, ナント)[映像監督]ニコラ・アンジェ</p>
大野和士の『炎の天使』2018	10,11,12,13,14,22	悪霊に取り憑かれた美しい女を救えるのか!?大野和士が指揮した2018年エクサン=プロヴァンス音楽祭の注目公演。これが大野の「宿命のオペラ」だ。	<p>[演目]セルゲイ・プロコフィエフ:歌劇『炎の天使』(全5幕7場)</p> <p>[指揮]大野和士[演出]マリウス・トレリンスキ[舞台]ボリス・グドリック[衣裳]ガスパール・グラールナー[照明]フェリーチェ・ロース[映像]バルテク・マチアス[振付]トマシュ・ウィゴダ</p> <p>[出演]アウシュリネ・ストウンディーテ(レナータ/ソプラノ)スコット・ヘンドリクス(ルプレヒト/バリトン)アグニエシュカ・レーリス(古い師、幻影/メゾ・ソプラノ)アンドレイ・ボボフ(メフィストフェレス、アグリッパ・フォン・ネッテスハイム/テノール)クシシュトフ・パチク(ファウスト、アンリ(ハインリヒ)伯爵、異端審問官/バス)パヴロ・トルストイ(ヤコブ・グロック、医者/テノール)ルーカシュ・ゴリンスキ(マトフェイ・ヴィスマン、ホテルの主人、第二のヤコブ・グロック、使用人/バリトン)ペルナデッタ・グラビアス(ホテルの女主人/メゾ・ソプラノ)ボジェナ・ブイニツカ(修道女1/ソプラノ)マリア・スタシアク(修道女2/ソプラノ)</p> <p>[管弦楽]パリ管弦楽団[合唱]ワルシャワ・オペラ合唱団</p> <p>[収録]2018年7月15日、エクサン=プロヴァンス、プロヴァンス大劇場(エクサン・プロヴァンス音楽祭、ライブ)[映像監督]フィリップ・ベジア</p> <p>■字幕/2時間15分(番組枠)</p>
トリノ王立歌劇場2016『ラ・ボエーム』	17,18,19,20	トリノ王立歌劇場 – 120年前にトスカニーニが初演した『ラ・ボエーム』が、その由緒ある劇場に21世紀の物語としてよみがえる。躍進中ソプラノのミミは抜群！	<p>[演目] ジャコモ・プッチーニ：歌劇『ラ・ボエーム』全4幕</p> <p>[演奏] ジャナンドレア・ノセダ（指揮）トリノ王立歌劇場管弦楽団</p> <p>[出演] イリーナ・ルング（ミミ/ソプラノ） ジョルジョ・ベッルージ（ロドルフォ/テノール） キレボヒリ・ピーソン（ムゼッタ/ソプラノ） マッシモ・カヴァレツィ（マルチェロ/バリトン）</p> <p>ベンジャミン・チョー（ショナル/バリトン） ガブリエーレ・サゴーナ（コッリーネ/バス） マッテオ・ペイローネ（ペノワ、アルチンドーロ/バス） カレン・ガンディ（パルピニョール/テノール）</p> <p>マウロ・バッラ（軍曹/バス） ダヴィデ・モッタ・フレ（税関吏/バリトン）</p> <p>[合唱] クラウディオ・フェノーリョ（合唱指揮）トリノ王立歌劇場合唱団トリノ王立歌劇場児童合唱団ジュゼッパ・ヴェルディ音楽院児童合唱団</p> <p>[演出] アレックス・オリエ [舞台美術] アルフォンス・フロレス [照明] ウルス・シェンバウム [衣裳] リュック・カステル</p> <p>[収録] 2016年10月、トリノ王立歌劇場（ライブ） [映像監督] ティツィアーノ・マンシーニ</p> <p>■字幕/約1時間54分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ザルツブルク音楽祭2017『アリオダンテ』	1	バルトリがヒゲづらにドレス！？ 男女の区別が錯綜するような配役と演出で、再評価著しいヘンデル・オペラの代表的傑作が上演された2017年ザルツブルク音楽祭	<p>[演出] ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：3幕のドラマ・ベル・ムジカ『アリオダンテ』</p> <p>[出演] チェチーリア・バルトリ（アリオダンテ/メゾ・ソプラノ）ネイサン・バーグ（スコットランド国王/バリトン）キャサリン・レウィック（ジネーヴラ/ソプラノ）ロラント・ピリヤソン（ルルカーニオ/テノール）クリストフ・デュモ（ボリネッソ/カウンターテナー）サンドリーヌ・ピオー（ダリダ/ソプラノ）クリストファー・ルンディン（オドアルド/テノール）</p> <p>[演奏] ジャンルカ・カプアーノ（指揮）レ・ミュージシャン・デュ・プランス＝モナコ（モナコ公の音楽家たち）ザルツブルク・バッハ合唱団（合唱指揮＝アロイス・グラスナー）</p> <p>[演出] クリストフ・ロイ [舞台美術] ヨハネス・ライアッカー [衣裳] ウルズラ・レンツェンブリック [照明] ロラント・エートリヒ [振付] アンドレアス・ハイゼ</p> <p>[収録] 2017年、ザルツブルク、モーツァルトのための劇場（祝祭小劇場）（ザルツブルク音楽祭ライブ） [映像監督] ティツィアーノ・マンチーニ</p>
ザルツブルク音楽祭2020『エレクトラ』	28,29,30	逆境のなか、不屈の意志で開催された創立100周年のザルツブルク音楽祭開幕を飾った『エレクトラ』。巧みな心理表現と、類まれな声の饗宴。	<p>[演出] リヒャルト・シュトラウス：1幕の悲劇『エレクトラ』</p> <p>[指揮] フランツ・ウェルザー＝メスト [管弦楽] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [合唱] ウィーン国立歌劇場合唱団（合唱指揮＝エルンスト・ラッフェルスベルガー）</p> <p>[演出] クシシュトフ・ワルリコフスキ [舞台&衣裳] マウゴルザータ・シシュニチャック [照明] フェリス・ロス [振付] クロード・バルドゥイユ [ドラマツルグ] クリステリアン・ロンシャン</p> <p>[出演] ターニャ・アリアーネ・パウムガルトナー（メゾ・ソプラノ/クリュテムネストラ）アウシュリネ・ストウンディーテ（ソプラノ/エレクトラ）アスミク・グリゴリアン（ソプラノ/クリツテミス）ミヒャエル・ラウレンツ（テノール/エギスト）デレク・ウェルトン（バス・バリトン/オレスト）ティルマン・レンネベック（バス/オレストの養育者）ヴェリティ・ウインゲイト（ソプラノ/クリュテムネストラの裾持ちの女）ヴァレリヤ・サヴィンスカヤ（ソプラノ/クリュテムネストラの侍女）マトイス・シュミットレヒナー（テノール/若い従僕）イェンス・ラーセン（バス/年老いた従僕）ソーニャ・シャリツチ（ソプラノ/監視の女）ポニータ・ハイマン（メゾ・コントラルト/5人の召使）、ケイティ・コヴェントリー（メゾ・ソプラノ/5人の召使）、デニス・ウズン（メゾ・ソプラノ/5人の召使）、シネイド・キャンベル＝ウォレス（ソプラノ/5人の召使）、ナタリア・タナジー（ソプラノ/5人の召使）</p> <p>[収録] 2020年8月、ザルツブルク、フルゼンライトシュレ [映像監督] ミリアム・ホイヤー</p>
TUTTO VERDI #26『ファルスタッフ』	3,4,5,6,7,9,15	24歳のアンドレア・バッティストーニがバルマのテアトロ・ファルネーゼで、ヴェルディ最後のオペラを指揮した2011年ヴェルディ・フェスティバル公演。	<p>[出演] アンブロージョ・マエストリ（ファルスタッフ/バリトン）ルカ・サルシ（フォード/バリトン）アントニオ・ガンディア（フェントン/テノール）スヴェトラ・ヴァシレヴァ（アリーチェ/ソプラノ）バルバラ・バルニエーシ（ナンネッタ/ソプラノ）ダニエラ・ピーニ（メグ・ペイジ夫人/メゾ・ソプラノ）ロミーナ・トマゾーニ（クイックリー夫人/メゾ・ソプラノ）ルカ・カザリン（医師カイウス/テノール）パトリツィオ・サウデッリ（バルドルフォ/テノール）マッティア・デンティ（ピストーラ/バス）</p> <p>[演出] ジュゼッペ・ヴェルディ：3幕からなるコメディ・リリカ『ファルスタッフ』[台本] アッリーゴ・ボイト [原作] ウィリアム・シェイクスピアの喜劇『ウィンザーの陽気な女房たち』及び戯曲『ヘンリー四世』[演出] スティーヴン・メドカルフ [装置&衣裳] ジェイミー・ヴァルタン [照明] サイモン・コーダー [指揮] アンドレア・バッティストーニ [演奏] バルマ王立歌劇場管弦楽団及び同合唱団 [合唱指揮] マルティエーノ・ファッジャーニ [収録] 2011年10月テアトロ・ファルネーゼ（バルマ） [映像監督] ティツィアーノ・マンチーニ</p> <p>■ 字幕 / 全3幕：約2時間13分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
オペレッタ映画『微笑みの国』	19,20,23,24,28,30	ワーグナーのみならずオペレッタでも活躍した往年の名テノール、ルネ・コロが、名アリア「君こそわが心のすべて」を絶唱したことで人気の高いオペレッタ映画。	[出演]ルネ・コロ（スー・ホン／テノール）ビルギット・ピッチュ＝サラテ（リーザ／ソプラノ）ダグマル・コラー（ミー／ソプラノ）ハインツ・ツェドニク（グスタフ・フォン・ポッテンシュタイン伯爵／テノール）フレッド・リーヴェー（フェルディナンド・リヒテンフェルス伯爵）ヘルベルト・プリコバ（執事）ゲルハルト・フリックホフファー（チャン）韓国ロイヤル・バレエ [演目]フランス・レハール：3幕のロマンティック・オペレッタ『微笑みの国』[台本]ルートヴィヒ・ヘルツァー、フリッツ・レーナー＝ベータ[原作]ヴィクトール・レオン台本／フランス・レハール作曲のオペレッタ『黄色の上着』[編曲]ベルント・グルント[指揮]ヴォルフガング・エーベルト[演奏]シュトゥットガルト放送交響楽団、シュトゥットガルト南ドイツ放送合唱団[装置]ヘルタ・ピシンガー＝ハライター[衣裳]イルムス・パウリ[振付]クラウス・ツィメルマン、ジュッタ・ギーセック[脚色&監督]アルトゥール・マリア・ラーベナルト[制作]1974年 ■字幕／映画版（全3幕）：約1時間41分
コンサート			
チェーリア・バルトリ『カストラートの芸術』	2,3,4,5,6	現代最高のメゾ・ソプラノのバルトリが17世紀に隆盛を誇ったカストラートのためのアリアを、世界遺産のカゼルタ宮殿で歌う。過激な切れ味の超絶技巧に目を見張る！	[演目]ニコラ・アントニオ・ポルボラ：歌劇『シファーチエ』～「波の直中の船のように」、ジェミニアーノ・ジャコモリ：歌劇『メローベ』～「妻よ、わたしが分らぬか…」、ジェミニアーノ・ジャコモリ：歌劇『ドイツのジェルマニコ』～シンフォニア、フランチェスコ・アラライア：歌劇『ベレニーチェ』～「私は落ちるだろう、まるで見るように」、ニコラ・アントニオ・ポルボラ：歌劇『ドイツのジェルマニコ』～「私は出立する、君をおいて、愛しの人よ」／歌劇『身分の知れたセミアミデ』～「幾多の激情の腕の中」／歌劇『アデライーデ』～「気高い水は」／歌劇『シファーチエ』～「不幸な夜鳴きウグイスは」、リッカルド・プロスキ：歌劇『アルタセルセ』～「私は振り乱される船のようだ」、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：歌劇『セルセ』～オンブラ・マイ・フ[指揮]ジョヴァンニ・アントニーニ[演奏]イル・ジャルディーノ・アルモニコ、チェーリア・バルトリ（メゾ・ソプラノ）[収録]2009年9月カゼルタ宮殿（ナポリ近郊）[映像監督]オリヴィエ・シモーネ ■字幕／約1時間3分
ティーレマン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第7番』	2,3,4,5,6	21世紀初となるウィーン・フィルのベートーヴェン交響曲全集映像。心を浮き立たせるようなリズムが特徴的で、後にワーグナーが「舞踏の聖化」と呼んだことでも知られる名曲。	[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第7番イ長調Op.92[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2009年11月ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ミハエル・ハイヤー ■約44分
ティーレマン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第8番』	27,28,30	21世紀初となるウィーン・フィルのベートーヴェン交響曲全集映像。第2楽章のリズムを刻むような主題が当時発明されたメトロノームからヒントを得たと言われる軽妙洒落な佳曲。	[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第8番イ長調Op.93[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2009年11月ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ミハエル・ハイヤー ■約35分
バレンボイムのマーラー『交響曲第9番』	2,3,4,5	2007年4月10日ベルリンのフィルハーモニーで行われた巨匠ダニエル・バレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンのマーラー『交響曲第9番』のライブ映像。	[演目]グスタフ・マーラー：交響曲第9番ニ長調 [指揮]ダニエル・バレンボイム[演奏]シュターツカペレ・ベルリン [収録]2007年4月10日フィルハーモニー（ベルリン）[映像監督]アンドレアス・モレル ■約1時間20分
ブッフビンダー&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第1番』	8,16	ベートーヴェンがウィーンに居を移して間もない頃の初期のピアノ協奏曲。ブッフビンダーがウィーン・フィルを弾き振りし、温かみのあるピアノとまろやかな音色のオーケストラの極上サウンドが必見。	[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第1番ハ長調Op.15[ピアノ&指揮]ルドルフ・ブッフビンダー[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2011年5月5日～8日ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]カリナ・フィビッヒ ■約41分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ブッフピンダー & ウィーン・フィル『ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第2番』	8,23	その初演がベートーヴェンにとってウィーン・デビューとなったピアノ協奏曲第2番。ブッフピンダーがウィーン・フィルを弾き振りし、ムジークフェラインに響きわたる極上のアンサンブルが素晴らしい。	[演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第2番変ロ長調Op.19 [ピアノ & 指揮] ルドルフ・ブッフピンダー [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2011年5月5日～8日 ムジークフェラインザール (ウィーン) [映像監督] カリーナ・フィビッヒ ■ 約33分
ブッフピンダー & ウィーン・フィル『ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番』	8,13	初演では独奏ピアノ・パートが空白のまま、ピアノ独奏者であるベートーヴェンが即興で乗り切ったというエピソードが有名。ブッフピンダーがウィーン・フィルを弾き振る姿は、まるでベートーヴェンのよう。	[演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番八短調Op.37 [ピアノ & 指揮] ルドルフ・ブッフピンダー [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2011年5月5日～8日 ムジークフェラインザール (ウィーン) [映像監督] カリーナ・フィビッヒ ■ 約40分
ブッフピンダー & ウィーン・フィル『ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番』	8,20	独奏ピアノの柔らかな音で始まる冒頭から、オーケストラとピアノが対話するアンサンブルまで、みどころ満載のベートーヴェンの傑作。ブッフピンダーとウィーン・フィルの会話するような音楽が必見。	[演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番ト長調Op.58 [ピアノ & 指揮] ルドルフ・ブッフピンダー [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2011年5月5日～8日 ムジークフェラインザール (ウィーン) [映像監督] カリーナ・フィビッヒ ■ 約38分
ブッフピンダー & ウィーン・フィル『ベートーヴェン：皇帝』	8,27	冒頭からピアノのカデンツァが華々しく登場するベートーヴェンの傑作。その壮大で力強い音楽は、まさに『皇帝』の名にふさわしい。ブッフピンダーとウィーン・フィルの白熱のアンサンブルも必見。	[演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番変ホ長調Op.73『皇帝』 [ピアノ & 指揮] ルドルフ・ブッフピンダー [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2011年5月5日～8日 ムジークフェラインザール (ウィーン) [映像監督] カリーナ・フィビッヒ ■ 約42分
ウィーン少年合唱団「MuTh オープニング・ガラ」	2,3	新たな活動拠点としてアウガルテン宮殿公園内に建設された新ホール「MuTh」(MusicとTheaterを組み合わせた造語)の完成披露コンサート。	[演目] ジュゼッペ・ヴェルディ：歌劇『アイダ』～第2幕「凱旋行進曲」、ミハエル・プレトリウス：アウディテ・シレーテ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプスK.618、ヤコブス・ガルス：しもべらよ、ともに歌え、アントン・ブルックナー：夢と目覚めWAB.87、フランツ・ペーター・シュベルト：シルヴィアにD.891／楽に寄すD.547、ジョヴァンニ・ガブリエリ：祝福あれ、処女マリアよ、アントン・ブルックナー：アヴェ・マリア、ゲラルト・ヴェルト：アヴェ・マリア・マハーラクシュミー、フランツ・ヨゼフ・ハイドン：テ・デウム 八長調Hob.XXIIIc-2 [指揮] ゲラルト・ヴェルト (ウィーン少年合唱団) フランツ・ウェルザー＝メスト (ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団) ラウル・ゲーリンガー (コーラス・ヴィエネンシス) パウル・ハルヴァックス (philBlech Wien) [演奏] ウィーン少年合唱団、コーラス・ヴィエネンシス (ウィーン少年合唱団OB男声合唱団) ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ヘルベルト・リッパート (テノール) エドワード・クトロヴァッツ (ピアノ) philBlech Wien (金管アンサンブル) [収録] 2012年12月9日アウガルテン公園内「MuTh」(ウィーン) [映像監督] アグネス・メス ■ 字幕／約58分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ウィーン国立バレエ2012『くるみ割り人形』	9,10,11,12,13,14,15,16,22	パリ・オペラ座エトワールとしてバレエ界に君臨したマニエル・ルグリが、2010年から芸術監督を務めるウィーン国立歌劇場バレエ団の『くるみ割り人形』です。演奏はウィーン・フィルの母体となるウィーン国立歌劇場管弦楽団。チャイコフスキーの名曲をウィーン・フィルの響きでお楽しみいただくバレエ公演です。	[音楽]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：バレエ『くるみ割り人形』Op.71[演出&振付]ルドルフ・ヌレエフ[オリジナル振付&台本]マリウス・プティパ&レフ・イワーノフ [原作]エルンスト・テオドール・アマデウス・ホフマンの童話『くるみ割り人形とねずみの王様』[美術&衣裳]ニコラス・ゲオルギアディス[照明]ジャック・ジョヴァナンジェッリ[指揮]ポール・コネリー[演奏]ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン国立歌劇場オペラ学校の子供たち、ウィーン国立歌劇場ステージ・オーケストラ [出演]リュドミラ・コノヴァロワ(クララ)ウラジーミル・シシヨフ(ドロッセルマイヤー/王子)エミリア・バラノヴィッチ(ルイザ)ダヴィデ・ダト(フリッツ)フランツィスカ・ヴァルナー=ホリネク(母)ガポール・オベレグガー(父)エヴァ・ボラチェク(祖母)クリストフ・ヴェンツェル(祖父)アツティラ・パコ、マルティン・ヴェインター(ねずみの王様)トレヴァー・ヘイデン(小さなくみ割り人形)アリョーナ・クロチコフ、プリスカ・ツァイゼル(雪の精)エミリア・バラノヴィッチ、ダヴィデ・ダト(スペインの踊り)ケテヴァン・パバヴァ、エノ・ベシ、エヴァ・ボラチェク、クリストフ・ヴェンツェル(アラビアの踊り)フランツィスカ・ヴァルナー=ホリネク&ガポール・オベレグガー(ロシアの踊り)マルチン・デンブチュ、アンドラーシュ・ルカーチ、リチャード・サボー(中国の踊り)イオアナ・アヴラム、橋本清香、木本全優(あし笛の踊り)ウィーン国立歌劇場バレエ団、ウィーン国立歌劇場バレエ学校の生徒たち [収録]2012年12月ウィーン国立歌劇場[映像監督]ミヒャエル・ペイヤー ■全2幕:約1時間43分
ザルツブルク音楽祭2012「アーノンケールのモーツァルト宗教曲集」	7,13,16,17,18,19	ニコラウス・アーノンケール率いる古楽器集団「ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス」のモーツァルト初期宗教曲集。	[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ミサ曲八長調K.262（246a）『ロンガ』／聖体の祝日のためのリタニア変ホ長調K.243[指揮]ニコラウス・アーノンケール[演奏]ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、アルノルト・シェーンベルク合唱団、シルヴィア・シュヴァルツ（ソプラノ）エリーザベト・フォン・マグヌス（アルト）ジェレミー・オヴェンデン（テノール）フローリアン・ベッシュ（バリトン）[合唱指揮]エルヴィン・オルトナー[収録]2012年7月29日ザルツブルク大聖堂[映像監督]フェリックス・ブライザハ ■約1時間15分
チェコ・フィルのドヴォルザーク『交響曲第5番』	3,21,29	楽団員の99%がチェコ人であるチェコ・フィルと、2012年に20年ぶりに首席指揮者として同楽団に戻ってきたチェコ人指揮者イルジー・ピエロフラーヴェクによる、21世紀新時代の「ドヴォルザーク交響曲全集」。	[演目]アントニン・ドヴォルザーク：交響曲第5番へ長調Op.76,B.54 [指揮]イルジー・ピエロフラーヴェク[演奏]チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]2012年12月13日「ルドルフィヌム」内ドヴォルザーク・ホール（プラハ）[映像監督]アダム・レゼク■約47分
チェコ・フィルのドヴォルザーク『交響曲第7番』	1	ドヴォルザーク三大交響曲の一つ。ロンドンで熱狂的な歓迎を受けたドヴォルザークが、ロンドン・フィルハーモニック協会から依頼を受けて作曲。自らの指揮で初演された。	[演目]アントニン・ドヴォルザーク：交響曲第7番二短調Op.70,B.141[指揮]イルジー・ピエロフラーヴェク[演奏]チェコ・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2012年12月19日～21日「ルドルフィヌム」内ドヴォルザーク・ホール（プラハ）[映像監督]アダム・レゼク ■約43分
チェコ・フィルのドヴォルザーク『新世界より』	1	楽団員の99%がチェコ人であるチェコ・フィルと、2012年に20年ぶりに首席指揮者として同楽団に戻ってきたチェコ人指揮者イルジー・ピエロフラーヴェクによる、21世紀新時代の「ドヴォルザーク交響曲全集」より、最後の交響曲第9番『新世界より』。収録は、チェコ・フィルの本拠地ドヴォルザーク・ホール。	[演目]アントニン・ドヴォルザーク：交響曲第9番ホ短調Op.95,B.178『新世界より』[指揮]イルジー・ピエロフラーヴェク[演奏]チェコ・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2013年11月13日～15日「ルドルフィヌム」内ドヴォルザーク・ホール（プラハ）[映像監督]アダム・レゼク ■約48分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ベルチャ四重奏団『ブラームス:弦楽四重奏曲第1番』	6,9,10,11	ベルチャ四重奏団がスイスのバーゼル音楽院「ジャズキャンパス」で収録されたブラームス弦楽四重奏曲全集（全3曲）より、弦楽四重奏の傑作を書いた先人ベートーヴェンを意識して作曲に8年以上も費やした第1番。	[演目]ヨハネス・ブラームス：弦楽四重奏曲第1番ハ短調Op.51-1 [演奏]ベルチャ四重奏団（第1ヴァイオリン：コリーナ・ベルチャ、第2ヴァイオリン：アクセル・シャハー、ヴィオラ：クシシュトフ・ホジェルスキー、チェロ：アントワヌ・レデルラン） [収録]2015年8月28日ジャズキャンパス（バーゼル）[映像監督]フレデリック・ドゥレク■約36分
ベルチャ四重奏団『ブラームス：弦楽四重奏曲第3番』	24,25	ベルチャ四重奏団がスイスのバーゼル音楽院「ジャズキャンパス」で収録されたブラームス弦楽四重奏曲全集（全3曲）より、一番明るく親しみやすい第3番。	[演目]ヨハネス・ブラームス：弦楽四重奏曲第3番変ロ長調Op.67 [演奏]ベルチャ四重奏団（第1ヴァイオリン：コリーナ・ベルチャ、第2ヴァイオリン：アクセル・シャハー、ヴィオラ：クシシュトフ・ホジェルスキー、チェロ：アントワヌ・レデルラン） [収録]2015年8月28日ジャズキャンパス（バーゼル）[映像監督]フレデリック・ドゥレク■約40分
ムター「クラブ・コンサート2015」	1,23,30	クラシック音楽の新しい聴衆に向けて新しい聴き方を提案する、世界最大のクラシック音楽レーベル「ドイツ・グラモフォン」の取り組み「イエロー・ラウンジ」に、世界最高のヴァイオリニスト、アンネ=ゾフィー・ムターが登場。	[演目]アントニオ・ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集Op.8『四季』より『夏』ト短調Op.8-2,RV.315～第3楽章、ジョージ・ガーシュウィン（ヤッシャ・ハイフェッツ編曲）：3つの前奏曲、ヨハン・セバスティアン・バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲二短調BWV.1043～第3楽章、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（ヤッシャ・ハイフェッツ編曲）：メロディ（なつかしい土地の思い出Op.42より）、アントニオ・ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集Op.8『四季』より『冬』ハ短調Op.8-4,RV.297～第1楽章、ヨハン・セバスティアン・バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲二短調BWV.1043～第1楽章、ヨハネス・ブラームス（ヨーゼフ・ヨアヒム編曲/レオポルト・アウアー改訂）：ハンガリー舞曲第1番ト短調、クロード・ドビュッシー（ヤッシャ・ハイフェッツ編曲）：ゴリウオーグのケークウォーク（組曲『子供の領分』より）、カミーユ・サン＝サーンス（ジョルジュ・ビゼー編曲）：序奏とロンド・カプリチオーソOp.28、クロード・ドビュッシー（アレクサンドル・レーレン編曲）：月の光（『ベルガマスク組曲』より）、アーロン・コープランド（アーロン・コープランド編曲）：ホー・ダウン（バレエ組曲『ロデオ』より）、ヨハン・セバスティアン・バッハ/シャルル・フランソワ・グノー：アヴェ・マリア、アルトゥール・ベンジャミン（ウィリアム・プリムローズ編曲）：ジャマイカン・ルンバ、ジョン・ウィリアムズ：映画『シンドラーのリスト』のテーマ [出演]アンネ=ゾフィー・ムター（ヴァイオリン） ランバート・オーキス（ピアノ） マハン・エスファハニ（チェンバロ） ムター・ヴィルトウオージ（アンサンブル） ノア・ヴィルトシュット（ヴァイオリン） ナンシー・ソウ（ヴァイオリン） [収録]2015年5月7日&8日ノイエ・ハイマート（ベルリン）[映像監督]ヨハネス・シュピッカー & オリヴァー・ゾンマー ■字幕/約1時間11分
アルグリッチ & バレンボイム「ピアノ・デュオ2014」	1,2,3,4,6,14	1941年生まれのマルタ・アルグリッチと1942年生まれのダニエル・バレンボイムは共にブエノスアイレス出身。二人とも幼少より才能を発揮し、瞬間に世界的スターとなり、現在もお第一線を走り続ける巨匠です。	[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：2台のピアノのためのソナタ 二長調K.448（375a）、フランツ・ベター・シューベルト：創作主題による8つの変奏曲変イ長調D.813,Op.35、イーゴル・ストラヴィンスキー：バレエ『春の祭典』（2台ピアノ版）、ロベルト・アレクサンダー・シューマン：2台のピアノのためのアンダンテと変奏曲変ロ長調Op.46、セルゲイ・ラフマニノフ：2台のピアノのための組曲第2番 Op.17～ワルツ、カルロス・グアスタビーノ：バイレシート、ダリウス・ミヨー：スカラムーシOp.165b～ブラジレイラ（ブラジルの女）[出演]マルタ・アルグリッチ（ピアノ）ダニエル・バレンボイム（ピアノ）リノール・カツ（チェロ）キアン・ソルタニ（チェロ）ホルヘ・モンテ・デ・フェス（ホルン）[収録]2014年8月コロソ劇場（ブエノスアイレス）[映像監督]ティロ・クラウゼ ■字幕/2時間10分（番組枠）

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ミンコフスキ&バルタバス「モーツァルトのレクイエム」	2,3,4,5,28	ミンコフスキとバルタバス、二人の鬼才が強力タッグを組んだ、人・馬・音楽の幽玄なコラボレーション。ミンコフスキの「モツレク」が聴けるのはこの映像だけ！	[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ミゼレーレ 短調K.85、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：キャロライン王妃の葬送のためのアンセム『シオンの道は悲しみ』HWV.264、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：レクイエム 二短調K.626（ランドン版）／アヴェ・ヴェルム・コルプス K.618[演出&振付]バルタバス[照明]ペルトラン・クデルク[出演]ヴェルサイユ馬術アカデミー[指揮]マルク・ミンコフスキ[演奏]ルーヴル宮音楽隊（レ・ミュージシャン・デュ・ルーヴル・グルノーブル）、ザルツブルク・バツハ合唱団、ゲニア・キューマイヤー（ソプラノ）エリーザベト・ケールマン（アルト）ジュリアン・ペール（テノール）チャールズ・デカイザー（バス）[合唱指揮]アロイス・グラスナー[収録]2017年1月29日&31日フェルゼンライツシューレ（ザルツブルク）「モーツァルト週間2017」[映像監督]アンディ・ゾマー ■字幕／約1時間12分
ドミトリー・マズレエフの「プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第1番」	5,6,9,10,16,26,27	プロコフィエフの全9曲のピアノ・ソナタを、2015年に行われた第15回チャイコフスキー国際コンクールの上位入賞者4人による豪華リレーで連続演奏する	[演目]セルゲイ・プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第1番へ短調Op.1[ピアノ]ドミトリー・マズレエフ[収録]2016年11月12日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）「MPHIL360°2016」[映像監督]コランタン・ルコント ■約8分
ドミトリー・マズレエフの「プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第2番」	10,11,12,13,21,25	プロコフィエフの全9曲のピアノ・ソナタを、2015年に行われた第15回チャイコフスキー国際コンクールの上位入賞者4人による豪華リレーで連続演奏する	[演目]セルゲイ・プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第2番二短調Op.14[ピアノ]ドミトリー・マズレエフ[収録]2016年11月12日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）「MPHIL360°2016」[映像監督]コランタン・ルコント ■約19分
ドミトリー・マズレエフの「プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第3番」	11,14,22	プロコフィエフの全9曲のピアノ・ソナタを、2015年に行われた第15回チャイコフスキー国際コンクールの上位入賞者4人による豪華リレーで連続演奏する	[演目]セルゲイ・プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第3番へ短調Op.28『古いソートから』[ピアノ]ドミトリー・マズレエフ[収録]2016年11月12日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）「MPHIL360°2016」[映像監督]コランタン・ルコント ■約9分
ジャルスキーが歌うバロック・オペラの世界	20,23,24,25	ジャルスキーがイタリア・バロックの作曲家アントニオ・カルダーラ（1670頃～1736）のオペラ・アリアを歌ったコンサートです。	[演目]アントニオ・カルダーラ：アリア「Contrasto assai più degno」（歌劇『テミストークレ』より）／レチタティーヴォ「私はファビオ？」アリア「Troppo è insoffribile」（歌劇『独裁官ルーチョ・パピリオ』より）、ジョヴァンニ・バッティスタ・サンマルティーニ：シンフォニア 長調第3楽章「プレスト・アツサイ」、アントニオ・カルダーラ：アリア「Non tremar vassallo indegno」（歌劇『テミストークレ』より）／アリア「Tutto fa nocchiero」（歌劇『オーリードのイフィゲニア』より）、アントニオ・ヴィヴァルディ：チェロ協奏曲二短調RV.407～第3楽章「アレグロ」、アントニオ・カルダーラ：アリア「Misero pargoletto」（歌劇『デモフォーンテ』より）／アリア「Lo seguitai felice」（歌劇『オリンピアード』より）／アリア「Vado, o sposa」（歌劇『エノーネ』より）／アリア「O mi rendi il mio bel ch'io spero」（歌劇『スペインのシビオーネ』より）ニコラ・ポルポラ：アリア「いと高きジョーヴェ」（歌劇『ポリフェーモ』より）、アントニオ・カルダーラ：アリア「Se un core annodi」（歌劇『シーロのアキレス』より）[カウンターテナー]フリッツ・ジャルスキー[演奏]コンチエルト・ケルン、ヴェルナー・マツケ（チェロ）[収録]2010年プリンツレーゲンテン劇場（ミュンヘン）[映像監督]クラウス・ヴィシユマン ■字幕／1時間5分（番組枠）
オロスコ=エストラダ&ウィーン・フィル 2018「バーンスタインとブラームス」	21,23,24,25,26,27	昇り竜の勢いを見せる、注目若手指揮者の筆頭的存在！南米コロンビア出身ながらウィーンの伝統を熟知した正統的ブラームスが示す、オーケストラとの好相性。	[演目]レナード・バーンスタイン：オペレッタ『キャンディード』～序曲、ヨハネス・ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲変ロ長調Op.56a／交響曲第1番八短調Op.68[指揮]アンドレス・オロスコ=エストラダ[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2018年4月21日&22日ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ディック・カイス ■約1時間19分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ルートヴィヒスブルク国際音楽祭のベキネル姉妹	12,13,16,17,26	シューベルト、モーツァルト、ブラームス、ドビュッシーからブーランク、ルトスワフスキ、ミヨーまで。ピアノ・デュオの粋を鮮やかに魅せるベキネル姉妹の至芸。	[演目] フランツ・ペーター・シューベルト: 幻想曲へ短調 Op.103 D.940、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト: 2台のピアノのためのソナタ 二長調 K.448、クロード・ドビュッシー: 白と黒で、マヌエル・インファンテ: アンダルシア舞曲〜第2曲「センチメント(感傷的に)」、フランシス・ブーランク: 2台のピアノのためのエレジー、ヴィトルト・ルトスワフスキ: パガニーニの主題による変奏曲、ヨハネス・ブラームス: ハンガリー舞曲第5番嬰へ短調、ダリウス・ミヨー: スカラムーシュ〜第3曲「ブラジルの女」[ピアノ] ギュヘル・ベキネル&ジュヘル・ベキネル [収録] 2012年6月28日フォーラム・アム・シユロースパーク(ルートヴィヒスブルク)「2012年ルートヴィヒスブルク国際音楽祭」[映像監督] クリストフ・エンゲル ■約1時間25分
メータ&ウィーン・フィル2016「ブッフピンダーを迎えて」	7,9,10,11,12,13	なんとも芳しく、ダイナミック! 巨匠メータが引き出すウィーン・フィル本来の豊麗なサウンドによるブラームス、そして彼らが独自にとらえたフランスの傑作2題。	[演目] ヨハネス・ブラームス: ピアノ協奏曲第1番二短調 Op.15、クロード・ドビュッシー: 交響詩「海」- 3つの交響的エスキス、モーリス・ラヴェル: ラ・ヴァルス [指揮] ズービン・メータ [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ルドルフ・ブッフピンダー(ピアノ) [収録] 2016年9月 ムジークフェラインザール (ウィーン) [映像監督] デック・カイス ■約1時間32分
ティーレマン&ブロンフマン「ウィーン・フィル定期演奏会2015」	1,2,3,4,5,6,7,15,21	2015年、ウィーン楽友協会での定期演奏会から、緩急自在な陶然とした『悲愴』。ブロンフマンのゴージャスなサウンドが炸裂するリスト。	[演目] カール・マリア・フォン・ウェーバー: 歌劇『オベロン』序曲、フランツ・リスト: ピアノ協奏曲第2番イ長調 S.125、ロベルト・シューマン: 『ウィーンの謝肉祭騒ぎ(幻想的絵画)』Op. 26より第2曲「ロマンツェ」、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー: 交響曲第6番ロ短調 op. 74 『悲愴』 [指揮] クリティアン・ティーレマン [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、イエフム・ブロンフマン (ピアノ) [収録] 2015年12月12、13日 ムジークフェラインザール (ウィーン) [映像監督] ロベルト・グムリヒ ■約1時間29分
ブロムシュテット&ウィーン・フィル「ベルワルドとドヴォルザーク」	8,9,10,11,12,13,14,22,28	このとき91歳とは信じられないエネルギー。2018年9月の定期演奏会で選んだのは、ブロムシュテットと同郷、スウェーデンの作曲家ベルワルドの交響曲第3番「風変わり」	[演目] ベルワルド: 交響曲第3番八長調「風変わりな交響曲」ドヴォルザーク: 交響曲第7番二短調 Op.70 B.141 [指揮] ヘルベルト・ブロムシュテット [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2018年9月 ムジークフェラインザール(ウィーン)約1時間19分
ヤンソンス&ウィーン・フィル定期公演2019	15,16,17,18,19,20,21,29	追悼マリス・ヤンソンス。つねにオーケストラに寄り添って親密な音楽を引き出した稀有な巨匠。2019年6月、ウィーン・フィルとの最後の定期公演。	[演目] ロベルト・アレクサンダー・シューマン: 交響曲第1番変ロ長調 Op.38『春』、エクトル・ベルリオーズ: 幻想交響曲 Op.14 [指揮] マリス・ヤンソンス [演奏] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2019年6月 ムジークフェラインザール(ウィーン) [映像監督] デック・カイス
バレンボイム&ウィーン・フィル定期公演2017「アルゲリッチを迎えて」	28,30	新たな伝説が生まれた瞬間を見逃すな! アルゲリッチとウィーン・フィルが歴史的な初共演。圧巻のピアノにオーケストラも熱く呼応。火花散る名演が生まれた!	[演奏] ダニエル・バレンボイム(指揮) ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 マルタ・アルゲリッチ(ピアノ) [曲目] フランツ・リスト: ピアノ協奏曲第1番変ホ長調 S.124 / R.455 グスタフ・マーラー: 交響曲第7番ホ短調『夜の歌』 [収録] 2017年11月、ウィーン楽友協会大ホール [映像監督] デック・カイス ■1時間50分(番組枠)

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バレンボイム&シュターツカペレ・ベルリン 「ブラームス交響曲全集」Vol.1	1,7	バレンボイムが手兵シュターツカペレ・ベルリンと共に故郷に凱旋。ブラームス交響曲第2番と第1番の重厚かつ濃密な演奏で、満場の聴衆のボルテージを上げる。	〔演目〕 ヨハネス・ブラームス：交響曲第2番 二長調Op.73 ヨハネス・ブラームス：交響曲第1番 八短調Op.68 〔指揮〕 ダニエル・バレンボイム 〔演奏〕 シュターツカペレ・ベルリン 〔収録〕 2018年7月 キルヒナー文化センター（ブエノスアイレス）〔映像監督〕 ティロ・クラウゼ
バレンボイム&シュターツカペレ・ベルリン 「ブラームス交響曲全集」Vol.2	14	バレンボイムが手兵シュターツカペレ・ベルリンと共に故郷に凱旋。ブラームス交響曲第2番と第1番の重厚かつ濃密な演奏で、満場の聴衆のボルテージを上げる。	〔演目〕 ヨハネス・ブラームス：交響曲第2番 二長調Op.73 ヨハネス・ブラームス：交響曲第1番 八短調Op.68 〔指揮〕 ダニエル・バレンボイム 〔演奏〕 シュターツカペレ・ベルリン 〔収録〕 2018年7月 キルヒナー文化センター（ブエノスアイレス）〔映像監督〕 ティロ・クラウゼ
バレンボイム&WEDO2012『ベートーヴェン：交響曲第7番』	1	イスラエルとパレスチナの若者がひとつの譜面台で隣り合う姿は平和への希望。2012年プロムスに登場したWEDOのベートーヴェン。バレンボイムは音楽に何を託すのか？	〔曲目〕ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 Op. 92 〔指揮〕ダニエル・バレンボイム〔管弦楽〕ウエスト＝イースタン・ディヴァン管弦楽団 〔収録〕2012年7月24日、ロンドン、ロイヤル・アルバート・ホール〔映像監督〕ロドニー・グリーンバーク
内田光子『モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番』	1	疾走する悲しみ——。現代最高のピアニストがモーツァルトの故郷の名門楽団と生み出すデモーニッシュな奔流。	〔ピアノ&指揮〕内田光子〔管弦楽〕カメラータ・ザルツブルク 〔曲目〕モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番 二短調K.466(カデンツァはベートーヴェン作のものを演奏) 〔収録〕2001年 ザルツブルク モーツァルトテウム大ホール〔監督〕ホラント・H・ホルフェルト
チェコ・フィルのマルティヌー：交響曲第1番	5,6,7,9,10,11,12,15	チェコ・フィルが取り組んだ、マルティヌー・ツィクルスの第1番。マーラー「巨人」と共に、ふたつの「第1番」で亡きビエロフラーヴェクの至芸に浸る	〔演目〕 ボフスラフ・マルティヌー：交響曲第1番H.289 グスタフ・マーラー：交響曲第1番 二長調「巨人」 〔指揮〕 イルジー・ビエロフラーヴェク 〔演奏〕 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 〔収録〕 2016年1月13,14,15日？ ルドルフィナム（プラハ） 〔映像監督〕 アダム・レゼク
カラヤン&ベルリン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第8番』	6,7,9,10,11,12,13,15	先端メディアに積極的に取り組んだ帝王カラヤンがのこした金字塔のベートーヴェン全集。 ベト8は、実験的な映像演出は控え目、音楽に集中できるスタンダードなスタイル	〔曲目〕 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第8番 へ長調 Op. 93 〔指揮〕 ヘルベルト・フォン・カラヤン 〔管弦楽〕 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 〔収録〕 1972年ベルリン、CCCフィルム・スタジオ 〔映像監督〕 ハンス＝ヨアヒム・ショルツ
チェコ・フィルのマルティヌー：交響曲第2番	12,13,14,16,17,18,19,22	チェコ・フィルによるマルティヌー・ツィクルスの第2番。ビエロフラーヴェク亡き後にツィクルスを担当したフルシャが、後継というにふさわしい好演を聴かせる	〔演目〕 ボフスラフ・マルティヌー：交響曲第2番H.295 〔指揮〕 ヤクブ・フルシャ 〔演奏〕 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 〔収録〕 2018年6月6,7,8日 ルドルフィナム（プラハ） 〔映像監督〕 アダム・レゼク

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタイン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第8番』	13,14,16,17,18,19,20,22	バーンスタインとウィーン・フィルが人類に残した、色褪せることのない20世紀の音楽遺産。妻を失った悲しみも垣間見え、人間バーンスタインのあたたかさも通う映像	〔演目〕 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第8番ヘ長調 Op.93 〔指揮〕 レナード・バーンスタイン 〔演奏〕 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 〔収録〕 1977年11月 ウィーン楽友協会大ホール（ライブ） 〔録音ディレクター〕 ジョン・マクローア 〔映像監督〕 ハンフリー・バートン
チェコ・フィルのマルティヌー：交響曲第3番	12,13,14,16,17,18,19,22	チェコ・フィルによるマルティヌー・ツィクルスの第3番。ピエロフラーヴェク亡き後にツィクルスを担当したフルシャが、充実の傑作ですばらしい名演を実現	〔演目〕 ボフスラフ・マルティヌー：交響曲第3番H.299 〔指揮〕 ヤクブ・フルシャ 〔演奏〕 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 〔収録〕 2018年3月28,29,30日 ルドルフィヌム（プラハ） 〔映像監督〕 ヘニング・カステン
チェコ・フィルのマルティヌー：交響曲第6番「交響的幻想曲」	12,13,14,16,17,18,19,22	チェコ・フィルが取り組んだ、マルティヌー・ツィクルスの第6番。幻想性をもつユニークな作品を、フルシャが力強く感動的に聴かせる	〔演目〕 ボフスラフ・マルティヌー：交響曲第6番H.343『交響的幻想曲』 〔指揮〕 ヤクブ・フルシャ 〔演奏〕 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 〔収録〕 2018年3月28,29,30日？ ルドルフィヌム（プラハ） 〔映像監督〕 ヘニング・カステン
バレンボイム&WEDO2012『ベートーヴェン：交響曲第8番』	20,21,23,24,25,26,27,29	イスラエルとパレスチナの若者がひとつの譜面台で隣り合う姿は平和への希望。2012年プロムスに登場したWEDOのベートーヴェン。バレンボイムは音楽に何を託すのか？	〔曲目〕ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 Op. 92 〔指揮〕ダニエル・バレンボイム〔管弦楽〕ウエスト=イースタン・ディヴァン管弦楽団 〔収録〕2012年7月24日、ロンドン、ロイヤル・アルバート・ホール〔映像監督〕ロドニー・グリーンバーク
バレンボイム&ウィーン・フィル定期公演2020「再始動」	22,23,24,25,26,27,28	ロックダウン後、ウィーン・フィルの再始動公演！ 未来への決意漲る、天国的なモーツァルトと、闘うベートーヴェンの音楽二題	〔指揮・ピアノ〕 ダニエル・バレンボイム 〔管弦楽〕 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 〔曲目〕 モーツァルト：ピアノ協奏曲第27番変ロ長調 K.595（カデンツァはモーツァルトのオリジナルを演奏） ベートーヴェン：交響曲第5番ハ短調 Op.68『運命』 〔収録〕 2020年6月5日 ウィーン楽友協会 大ホール 〔映像監督〕 アグネス・メス
チェコ・フィルのマルティヌー：交響曲第4番	19,20,21,23,24,25,26,29	チェコ・フィルのマルティヌー・ツィクルスの第4番。マルティヌーとヤナーチェク、20世紀チェコ2大家の生命力あふれる名作を、ピエロフラーヴェク最晩年の至芸で堪能	〔演目〕 ボフスラフ・マルティヌー：交響曲第4番H.305 リヒャルト・シュトラウス：ホルン協奏曲第2番変ホ長調 レオシュ・ヤナーチェク：シンフォニエッタ 〔指揮〕 イルジー・ピエロフラーヴェク 〔演奏〕 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ラデク・パボラーク（ホルン）プラハ城警備隊&チェコ警察音楽隊 〔収録〕 2017年2月22,23,24日 ルドルフィヌム（プラハ） 〔映像監督〕 アダム・レゼク

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ウェルザー＝メスト&ウィーン・フィル定期公演2020	29,30	しなやかなる颯爽、透明な絢爛。 ウィーン・フィルがウェルザー＝メストと伝える、自国の文化の誇り	[指揮] フランツ・ウェルザー＝メスト [管弦楽] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [曲目] R・シュトラウス： 歌劇『インテルメッツォ』op.72による4つの交響的間奏曲 1.旅立ち前の興奮とワルツの場面、2.暖炉のかたわらの夢想、3.ゲーム用テーブルで、4.楽しい結末 シューベルト： 交響曲第3番ニ長調 D200 [収録] 2020年6月21日 ウィーン楽友協会 大ホール [映像監督] ディック・カイス
チェコ・フィルのマルティヌー：交響曲第5番	26,27,28,30	チェコ・フィルのマルティヌー・ツィクルスの第5番を、名匠の域に入りつつあるフルシャの好演で味わう。名ピアニストのエマルが弾くドヴォルザークも貴重	[演目] ヴィクトル・カラビス： 組曲「ストラージュニツェの祭り」Op. 9 アントニン・ドヴォルザーク：ピアノ協奏曲ト短調Op.33 ポフスラフ・マルティヌー：交響曲第5番H.310 [指揮] ヤクブ・フルシャ [演奏] チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ピエール＝ロラン・エマル（ピアノ） [収録] 2019年1月23,24,25日 ルドルフィヌム（プラハ） [映像監督] アダム・レゼク
アーノンケールのバツハ『オーボエとヴァイオリンのための協奏曲』	1	20世紀の古楽運動の主導者としてクラシック音楽界に革命をもたらし、2016年3月に86歳で亡くなったニコラウス・アーノンケールと手兵「ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス」が1982年に映像収録したJ・S・バツハ『オーボエとヴァイオリンのための協奏曲二短調』。	[演目]ヨハン・セバスティアン・バツハ：オーボエとヴァイオリンのための協奏曲二短調BWV.1060a[演奏]ニコラウス・アーノンケール&ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、ユルク・シェフトライン（オーボエ）アリス・アーノンケール（ヴァイオリン） [収録]オクセンハウゼン修道院図書館[映像監督]クラウス・リンデマン[制作]1984年 ■約17分
リヒターのバツハ『ブランデンブルク協奏曲第3番』	3,4,5,6,9		[演目]ヨハン・セバスティアン・バツハ：ブランデンブルク協奏曲第3番ト長調BWV.1048[指揮&チェンバロ]カール・リヒター[演奏]ミュンヘン・バツハ管弦楽団[収録]1970年4月1日～10日シュライスハイム城（ミュンヘン） [映像監督]アルネ・アルンボム ■約14分
ショルティ&ロンドン・フィル『コッペリア組曲』	1,6,23,26,27,30	20世紀を代表するハンガリーの指揮者ゲオルグ・ショルティが英国の名門オーケストラ、ロンドン・フィル首席指揮者に就任した1979年シーズンの「ニューイヤー・イヴ（ジルヴェスター）・コンサート」です。	[演目]レオ・ドリーブ：バレエ音楽『コッペリア』組曲（前奏曲とマズルカ/情景とスワニルダの円舞曲/チャールダーシュ/情景と人形の円舞曲/バラード/スラブ民謡と変奏曲） [指揮]サー・ゲオルグ・ショルティ[演奏]ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]1979年12月31日ロイヤル・フェスティヴァル・ホール「ニューイヤー・イヴ・コンサート」[映像監督]ハンフリー・バートン ■約14分 [演奏]ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
アーノンケール&ウィーン・フィル「モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第5番『トルコ風』」	9,10,13,15	時の流行であったトルコ趣味を取り入れた第5番『トルコ風』。堂々とした楽想と、技術的にも内容的にも充実しているので現在でも人気が高い楽曲です	[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第5番ニ長調K.219『トルコ風』 [指揮]ニコラウス・アーノンケール[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ギドン・クレーメル（ヴァイオリン） [収録]1987年1月ムジークフェラインザール（ウィーン） [映像監督]ロドニー・グリーンバーク ■約31分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ストラヴィンスキー：バレエ組曲『火の鳥』 (1919年版)	7,15,18,20,23,24,25	ストラヴィンスキー：バレエ組曲『火の鳥』(1919年版)	[演目]イーゴル・ストラヴィンスキー：バレエ組曲『火の鳥』(1919年版) [指揮]ユージン・オーマンディ[演奏]フィラデルフィア管弦楽団 [収録]1977年アカデミー・オブ・ミュージック(フィラデルフィア)[映像監督]カーク・ブラウニング ■約24分
ギレリスのシューマン『夜想曲』	4	ギレリスのシューマン『夜想曲』	[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：夜想曲第4番へ長調Op.23-4、フェリックス・メンデルスゾーン=バルトルディ：無言歌集第6巻へハ長調『つむぎ歌』Op.67-4 [ピアノ]エミール・ギレリス[収録]1971年オシアッハ修道院附属教会「ケルテンの夏音楽祭1971」[映像監督]フーゴー・ケヒ ■約8分
ハイドン：弦楽四重奏曲第74番ト短調『騎士』	17,18,19,24,27	数あるハイドンの弦楽四重奏曲の中でも有名なものの一つ。副題は勇壮な第4楽章の開始部分から。第2楽章を作曲家自身がクラヴィア(ピアノ)用に編曲している。	[演目]フランツ・ヨーゼフ・ハイドン：弦楽四重奏曲第74番ト短調Op.74-3,Hob. I -74『騎士』、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：歌劇『ドン・ジョヴァンニ』K.527～「シャンパンの歌」(弦楽四重奏版)[演奏]ウィーン・アルティス四重奏団[収録]2001年1月モーツァルトテウム大ホール(ザルツブルク)「モーツァルト週間」 ■約28分
チャモローザ：インテルメッツォ『宮廷楽師長』	14,16,20,17,18,19	気取った宮廷楽師長がオーケストラの練習を始めるが…。ユーモアとウィットに富んだ、基本的にはバス独唱曲。ロシア宮廷に使えたチャモローザの名曲。	[演目]ドメニコ・チャモローザ：インテルメッツォ『宮廷楽師長』[指揮&オルガン]トン・コーブマン[演奏]ザルツブルク・モーツァルトテウム管弦楽団、マウリツィオ・ムラーロ(バリトン)[収録]2002年1月モーツァルトテウム(ザルツブルク)「モーツァルト週間2002」 ■字幕/約25分
ベルチャ四重奏団『ブラームス：弦楽四重奏曲第2番』	9,10,11,12,13	新時代を疾走する弦楽四重奏団として世界的に注目を集めるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴィオラ奏者、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国国立音楽大学で結成。	[演目]ヨハネス・ブラームス：弦楽四重奏曲第2番イ短調Op.51-2 [演奏]ベルチャ四重奏団(第1ヴァイオリン:コリーナ・ベルチャ、第2ヴァイオリン:アクセル・シャハー、ヴィオラ:クシシュトフ・ホジェルスキー、チェロ:アントワヌ・レデルラン) [収録]2015年8月28日ジャズキャンパス(バーゼル)[映像監督]フレデリック・ドゥレク■約38分
ドキュメンタリー&エンターテイメント			
ヘルベルト・フォン・カラヤン～その目指した美の世界～	1,5,16,29	カラヤン生誕100周年を記念して、アカデミー賞ノミネート監督のロバート・ドーンヘルムが“帝王”カラヤンの知られざる人生と芸術に迫るドキュメンタリー。	[出演]ヘルベルト・フォン・カラヤン、アンネ・ゾフィー・ムター、小澤征爾、クリスティアン・ティーレマン、サー・サイモン・ラトル、ルネ・コロ、クリスタル・ルトヴィヒ、ブリギッテ・ファスベンダー、ブラシド・ドミンゴ、グンドウラ・ヤノヴィッツ、エリーザベト・シュヴァルツコップ、マリス・ヤンソンス、サー・ゲオルグ・ショルティ、ヨアヒム・カイザー、ヘルムート・シュミット、エフゲニー・キエシン[監督]ロバート・ドーンヘルム[制作]2007年 ■字幕/約1時間32分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ドキュメンタリー『ウィーン・フィルの誕生』	1,14,17,20	音楽学者として著書もあるウィーン・フィルのクレメンス・ヘルスベルク楽団長と、ヨーロッパ最高の音楽評論家ヨアヒム・カイザーが、ベートーヴェンとウィーン・フィル誕生の歴史を紐解くドキュメンタリー。	[出演]ヨアヒム・カイザー（音楽評論家）クレメンス・ヘルスベルク（ウィーン・フィル楽団長）ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 他 [監督]クリストフ・エンゲル[制作]2011年 ■字幕／約36分
ティーレマンと語るベートーヴェン『交響曲第7番』	1,2,3	音楽評論家ヨアヒム・カイザー（1928～2017）が、指揮者クリスティアン・ティーレマンと共に、ベートーヴェン『交響曲第7番』の音楽的特徴とティーレマンの解釈を討論する。	[出演]ヨアヒム・カイザー（音楽評論家）クリスティアン・ティーレマン（指揮者）[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第7番イ長調 Op.92[監督]クリストフ・エンゲル[制作]2010年 ■字幕／約1時間
ティーレマンと語るベートーヴェン『交響曲第8番』	24,25,26,27,28,29,30	音楽評論家ヨアヒム・カイザー（1928～2017）が、指揮者クリスティアン・ティーレマンと共に、ベートーヴェン『交響曲第8番』の音楽的特徴とティーレマンの解釈を討論する。	[出演]ヨアヒム・カイザー（音楽評論家）クリスティアン・ティーレマン（指揮者）[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第8番ヘ長調 Op.93[監督]クリストフ・エンゲル[制作]2010年 ■字幕／約55分
アルフレート・ブレンデルの音楽講座 第1回「クラシック音楽は真面目でなければならないのか？」	3,4,5,6,7,8,9,10,15	2010年にザルツブルクで3日間にわたって行われ、大好評を博したブレンデルのレクチャー第1回。著書も多く楽譜の編纂にも積極的に関わるなど、演奏から教育へ活動の場を移してなお世界中で活躍する彼の健在ぶりがいかに発揮されている。	[出演]アルフレート・ブレンデル[監督]マーク・カイデル[収録]2010年9月25日日ザルツブルク ■字幕／約1時間16分
アルフレート・ブレンデルの音楽講座 第3回「音楽における解釈の光と影」	17,18,19,20,21,22,23,24,25	2010年にザルツブルクで3日間にわたって行われ、大好評を博したブレンデルのレクチャー第1回。著書も多く楽譜の編纂にも積極的に関わるなど、演奏から教育へ活動の場を移してなお世界中で活躍する彼の健在ぶりがいかに発揮されている。	[出演]アルフレート・ブレンデル[監督]マーク・カイデル [収録]2010年9月27日ザルツブルク■字幕／約1時間20分
アルフレート・ブレンデルの音楽講座 第2回「ベートーヴェンのピアノ・ソナタにおける音楽的な性格の例証」	10,11,12,13,14,15,16,17,22	2010年にザルツブルクで3日間にわたって行われ、大好評を博したブレンデルのレクチャー第1回。著書も多く楽譜の編纂にも積極的に関わるなど、演奏から教育へ活動の場を移してなお世界中で活躍する彼の健在ぶりがいかに発揮されている。	[出演]アルフレート・ブレンデル[監督]マーク・カイデル [収録]2010年9月26日ザルツブルク■字幕／約1時間14分
ポートレート『マリス・ヤンソンス』	2,8,11,12	ラトビア出身のカリスマ指揮者マリス・ヤンソンス。人間性、音楽の柔軟性が高く評価されている巨匠の音楽への姿勢と素顔を追ったドキュメンタリー。	[出演]マリス・ヤンソンス（指揮者）シュテファン・ヘアハイム（演出家）ラン・ラン（ピアニスト）クレメンス・ヘルスベルク（ウィーン・フィル楽団長）ジュリア・カンター（エルミタージュ美術館歴史家）ルドルフ・フッフビンダー（ピアニスト）クラッシミラ・ストヤノヴァ（ソプラノ歌手）トーマス・ハンブソン（バリトン歌手）ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団 [映像監督]ロベルト・ノイミュラー ■字幕／約53分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ポートレート『アルブレヒト・マイヤー』	5,29	バンベルク響からベルリン・フィルのソロ・オーボエ奏者へ着実に国際的キャリアを歩むマイヤーの足跡を紹介。ベルリン・フィルやオーケストラ・モーツァルト、シンフォニア・ヴァルソヴィアとの共演など、パフォーマンス映像の数々は注目。	[演目]ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：チェンバロ組曲第2巻第3番二短調HWV.436～「サラバンド」、グスターヴ・ホルスト：組曲『惑星』、ブレット・ディーン：コマロフの墜落、ヨハン・セバスティアン・バッハ（アンドレアス・N・タルクマン編）：オーボエ・ダモーレ協奏曲イ長調BWV.1055（原曲：チェンバロ協奏曲イ長調BWV.1055）、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：アリア へ長調K.368（原曲：コンサート・アリア『岸は近いと望んでいた』K.368）、ヨハン・セバスティアン・バッハ（アンドレアス・N・タルクマン編）：イタリア協奏曲へ長調BWV.971、ヨハン・セバスティアン・バッハ：復活祭オラトリオBWV.249～「シンフォニア」、ドメニコ・スカラッティ：ソナタK.90、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：オラトリオ『ソロモン』HWV.67～「シバの女王の入城」/『調子のよい鍛冶屋』変奏曲HWV.430、ジャン・フランセ：花時計、フェリックス・メンデルスゾーン＝バルトルディ：弦楽のための交響曲第10番短調 他より [出演]アルブレヒト・マイヤー（オーボエ）他[監督]クリスティアン・クルト・ヴァイス[制作]2006年 ■字幕／約1時間
ポートレート『フリッツ・ヴンダーリヒ』	13,16,17,18,19	1966年9月17日に35歳の若さで夭折した、20世紀最高のリリック・テノールと称されるヴンダーリヒの生涯を追ったドキュメンタリー。	[出演]フリッツ・ヴンダーリヒ、バルバラ・ヴンダーリヒ、ヘルマン・プライ、バルバラ・プライ、クリスタル・ルトヴィヒ、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ、ブリギッテ・ファスベンダー、ロランド・ピリヤソン、トーマス・ハンボン[主な演目]『魔笛』『後宮からの逃走』『セビリアの理髪師』『宮廷楽士長』他より [コンセプト]バルバラ・ヴンダーリヒ&ヴォルフガング・ヴンダーリヒ[監督]トーマス・シュテラー[制作]2006年 ■字幕／約1時間
ポートレート『サー・ゲオルグ・ショルティ～指揮者の肖像』	20,23,24,25,26	ハンガリー出身の指揮者ゲオルグ・ショルティ（1912～1997）のこれまでの人生と音楽経歴を自らが語るドキュメンタリー。	[出演]サー・ゲオルグ・ショルティ、アイザック・スターン、ヴォルフガング・ワーグナー、ヒルデガルド・ペーレンス、シカゴ交響楽団、パイロイト祝祭管弦楽団、バイエルン放送交響楽団 他 [監督]ヴァレリー・ピッツ[制作]1985年 ■字幕／約1時間15分
ドゥダメル『プロミス・オヴ・ミュージック』	6,9,10,11,12	ベネズエラの本拠地でのリハーサルからボンで本番を迎えるまでを追いかけて、さらに何人かの楽団員とドゥダメルをピックアップし、彼らの家族や生い立ち、音楽への取り組みを明らかにしたドキュメンタリーです。	[出演]グスターボ・ドゥダメル（指揮）ベネズエラ・シモン・ボリバル・ユース・オーケストラ、ホセ・アントニオ・アブレウ（「エル・システム」設立者）他 [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第3番変ホ長調Op.55『英雄』他より[監督]エンリケ・サンチェス・ランチ[制作]2008年 ■字幕／約1時間33分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第11話「ソナタ形式ってなに？」	2,3,4	伝説のテレビ・シリーズ第11話は、ソナタ形式がテーマ。ビートルズのヒット曲を弾き語りし、交響曲やピアノ・ソナタを題材にしなが、「提示部」「展開部」「再現部」の構造と調性の関係を解説。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話し・指揮・ピアノ）ニューヨーク・フィルハーモニック、ヴェロニカ・タイラー（ソプラノ）[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：交響曲第41番八長調K.551『ジュピター』～第1楽章、ジョルジュ・ビゼー：歌劇『カルメン』～ミカエラのアリア『何を恐れることがありませんよ』、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ピアノ・ソナタ第15番八長調K.545～第1楽章、セルゲイ・プロコフィエフ：交響曲第1番二長調Op.25『古典』～第4楽章[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク）[オリジナル放映日]1964年11月6日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約55分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第10話「メロディーってなに？」	2,3,4	バーンスタインが子供たちに楽しくクラシック音楽を解説する第10話は、ワーグナー、モーツァルト、ヒンデミット、ブラームスを題材に、音の連続で構成されたメロディーを解説。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話し・指揮・ピアノ）ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]ビョートル・イリイチ・チャイコフスキー：交響曲第6番短調Op.74『悲愴』～第1楽章より、リヒャルト・ワーグナー：楽劇『トリスタンとイゾルデ』～前奏曲より、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：交響曲第40番短調K.550～第1楽章、パウル・ヒンデミット：弦楽と金管のための協奏音楽Op.50、ヨハネス・ブラームス：交響曲第4番ホ短調Op.98～第4楽章[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク）[オリジナル放映日]1962年12月21日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約54分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第15話「ベルリオーズの“幻想”」	4,5,6,7,9,10,11,15	バーンスタインが「音楽史上初のサイケデリック音楽」と名付けるベルリオーズの『幻想交響曲』がテーマ。恋のモチーフがさまざまな形に発展していく楽曲構成をわかりやすく解説。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]エクトール・ベルリオーズ：幻想交響曲Op.14（第1楽章「夢と情熱」第2楽章「舞踏会」第3楽章「野の風景」第4楽章「断頭台への行進」第5楽章「ワルプルギスの夜の夢」）[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1969年5月25日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／約53分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第16話「グスタフ・マーラーの魅力」	11,12,13,14,16,17,18,22	バーンスタインがブームのきっかけを作ったともいえるマーラーがテーマ。指揮者と作曲家という一人二役に焦点を当て、マーラーの二面性に迫る解説は必見。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、レリ・グリスト（ソプラノ） ヘレン・ラブ（アルト） ウィリアム・ルイス（テノール） [演目]グスタフ・マーラー：交響曲第4番ト長調～第1楽章より／第3楽章より／第4楽章、大地の歌～第3曲「青春について」（詩：李白）、歌曲集『子供の不思議な角笛』～「魚に説教するパドヴァの聖アントニウス」より、交響曲第2番ハ短調『復活』～第5楽章より／第3楽章より、大地の歌～第6曲「告別」（詩：孟浩然&王维） [収録]カーネギー・ホール（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1960年2月7日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／約54分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第12話「シベリウスを讀んで」	2,3,4	バーンスタインが「人生の中で最も誇りに思う仕事の一つ」と語る伝説のテレビ・シリーズの第12話は、収録当時の1965年に生誕100周年を迎えたフィンランドの作曲家シベリウスがテーマ。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、セルジウ・ルカ（ヴァイオリン） [演目]ジャン・シベリウス：交響詩『フィンランディア』Op.26／ヴァイオリン協奏曲ニ短調Op.47～第1楽章／交響曲第2番ニ長調Op.43～第4楽章 [収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1965年2月19日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／約54分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第13話「音楽の原子 ―音程を学ぼう―」	4,5,6,7,9,10,11,15	ビートルズの「HELP」がわかればブラームスもわかる！あらゆる曲は、音楽の原子たる2つの音の関係、つまり音程で成り立っているというバーンスタインの音楽論。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]リヒャルト・ワーグナー：歌劇『ローエングリン』～第3幕前奏曲、ヨハネス・ブラームス：交響曲第4番ホ短調Op.98～第1楽章、レイフ・ヴォーン＝ウィリアムズ：交響曲第4番ヘ短調～第4楽章 [収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1965年11月29日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／約56分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第17話「ハッピー・バースデー、ストラヴィンスキー！」	11,12,13,14,16,17,18,22	「子供たちが最大の理解者」と語るストラヴィンスキー80歳を祝い、バレエ音楽『ペトルーシュカ』（1947年版）の解説&全曲演奏。ストラヴィンスキー編曲『ハッピー・バースデー』は必見。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]イーゴル・ストラヴィンスキー：バレエ『ペトルーシュカ』（1947年版）～第1場「謝肉祭の市」第2場「ペトルーシュカの部屋」第3場「ムアア人の部屋」第4場「謝肉祭の市（夕景）」 [収録]カーネギー・ホール（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1962年3月26日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／約55分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第8話「コンサート・ホールの中の民族音楽」	1	『マイ・フェア・レディ』『ウエスト・サイド物語』の歌の吹き替えで知られるマーニ・ニクソンが出演。音楽のリズムやアクセント、抑揚が、その民族の言語と同じ特徴を持っていることを解明する第8話。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック、マーニ・ニクソン（ソプラノ） [演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：交響曲第39番変ホ長調K.542～第3楽章、カルロス・チャベス：交響曲第2番『インディオ』、ジョゼフ・カントループ：オーヴェルニュの歌～アントウエノ／紡ぎ女／女房持ちはかわいそう、チャールズ・アイヴス：交響曲第2番V-11～第5楽章 [収録]カーネギー・ホール（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1961年4月9日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／約55分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第7話「協奏曲ってなに？」	1	バーンスタイン自らが子供たちに楽しくわかりやすくクラシック音楽を解説する第7話は協奏曲がテーマ。当時のコンサートマスター、ジョン・コリアーノのヴァイオリン・ソロの姿も貴重。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ハーブシコード） ニューヨーク・フィルハーモニック、ジョン・コリアーノ（ヴァイオリン） ジョン・ウーマー（フルート） ウィリアム・リンサー（ヴィオラ） [演目]アントニオ・ヴィヴァルディ：協奏曲ハ長調RV.558～第1楽章、ヨハン・セバスティアン・バッハ：ブランデンブルク協奏曲第5番ニ長調BWV.1050～第3楽章、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：協奏交響曲変ホ長調K.364～第2楽章、フェリックス・メンデルスゾーン＝バルトルディ：ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64～第3楽章、バルトーク・ベラ：管弦楽のための協奏曲Sz.116～第4楽章&第5楽章[収録]カーネギー・ホール（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1959年3月28日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約1時間1分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第14話「魔法ってなに？」	4,5,6,7,9,10,11,15	ミクソリディア旋法が使われたザ・キングス「ユー・リアリー・ガット・ミー」をバーンスタインが弾き語り！クラシックの名曲やヒットソングを例に「魔法」を解説。いよいよテレビはカラーへ。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]クロード・ドビュッシー：夜想曲～祭り、モデスト・ムソルグスキー：歌劇『ボリス・ゴドゥノフ』～ポロネーズ、レナード・バーンスタイン：バレエ『ファンシー・フリー』～ダンス[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1966年11月23日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約55分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第9話「印象主義ってなに？」	1	ドビュッシーの交響詩『海』をテーマに、子供たちに印象主義を説明する40代のバーンスタイン。全音階や旋法、複調性の解説もわかりやすい。バーンスタインのピアノの上手さも印象的。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]クロード・ドビュッシー：交響詩『海』（第1楽章「海の夜明けから真昼まで」第2楽章「波の戯れ」第3楽章「風と海の対話」）、モーリス・ラヴェル：バレエ『ダフニスとクロエ』第2組曲～全員の踊り[収録]カーネギー・ホール（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1961年12月1日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約57分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第18話「ラテン・アメリカの精神」	11,12,13,14,16,17,18,22	ブラジルとメキシコの音楽から、ラテン音楽に影響を受けたアメリカ作曲家の作品まで。思わず踊り出したくなりそうなラテン・アメリカのクラシックを徹底紹介。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、ネタニア・ダヴラツ（ソプラノ） [演目]オスカル・ロレンツ・フェルナンデス：組曲「牧場の主顕祭の踊り」～第3楽章「パトゥーキ」、エイトル・ヴィラ＝ロボス：ブラジル風「パッパ」第5番（第1楽章「アリア（カンティレーナ）」第2楽章「踊り（マルテロ）」）、シルベストレ・レプエルタス：センセマヤ、アロン・コーブランド：キューバ舞曲、レナード・バーンスタイン：『ウェスト・サイド・ストーリー』からのシンフォニック・ダンス[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1963年3月8日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／1時間5分（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第21話「ショスタコーヴィチの誕生日を祝って」	18,19,20,21,23,24,25,29	放送年の1966年に60歳を迎えた旧ソ連の作曲家ショスタコーヴィチをテーマに、最も短く最もウィットに富んだ交響曲第9番を全曲演奏。バーンスタインによる各楽章の解説は必見。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]ドミートリイ・ショスタコーヴィチ：交響曲第7番ハ長調Op.60『レニングラード』より／交響曲第9番変ホ長調Op.70（第1楽章「アレグロ」第2楽章「モデラート」第3楽章「プレスト」第4楽章「ラルゴ」第5楽章「アレグレット」） [収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1966年1月5日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／1時間5分（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第23話「クイズ・コンサート～あなたの音楽度は？」	25,26,27,28,30	バーンスタインが最も誇りに思っていると語る伝説のテレビ・シリーズ。クイズ・コンサートというユニークな内容とバーンスタインが弾き語りするビートルズ『ア・デイ・イン・ザ・ライフ』は必見。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・ピアノ・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]ヨハネス・ブラームス：交響曲第1番ハ短調Op.68より、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：歌劇『フィガロの結婚』K.492～序曲、セルゲイ・プロコフィエフ：交響曲第1番ニ長調Op.25『古典』～第1楽章、ニコライ・リムスキー＝コルサコフ：スペイン奇想曲Op.34～第4曲「シェーナとジブシーの歌」第5曲「アストウリアのファンダンゴ」[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1968年5月26日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／1時間（番組枠）

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第25話「フィデリオ〜命の賛歌〜」	25,26, 27,28, 30	伝説のテレビ・シリーズ第1シーズン最終話は、ベートーヴェン唯一のオペラの音楽とその理念を、バーンスタインが子供たちにわかりやすく解説。この楽曲に対する巨匠の共感の強さが感動的。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、アンタ・ダリアン（レオノーレ） フォレスト・ウォーレン（フロレスタン） ハワード・ロス（ロッコ） デイヴィッド・カンバーランド（ドン・ピツァロ） [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：歌劇『フィデリオ』Op.72第2幕〜第11番「序奏とアリア」／第12番「メロドラマと二重唱」／第13番「三重唱」／第14番「四重唱」[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1970年3月29日[映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／1時間（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第19話「コンサート・ホールの中のジャズ」	18,19, 20,21, 23,24, 25,29	ジャズとクラシックの現代音楽を融合した「サード・ストリーム」という新しい潮流。若きエリスとドルフィーの貴重映像やコーブランドのピアノ、バーンスタインのファンキーな指揮など見どころ満載。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、ガンサー・シュラー（指揮） アーロン・コーブランド（ピアノ） ドン・エリス（トランペット） リチャード・デイヴィス（ベース） ジョセフ・コクツォ（ドラム） ベニー・ゴルソン（テナーサクソ） エリック・ドルフィー（アルトサクソ） [演目]ガンサー・シュラー：ジャズへの旅、アーロン・コーブランド：ピアノ協奏曲、ラリー・オースティン：管弦楽とジャズ・プレイヤーのためのインプロヴィゼーション[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1964年3月11日[映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／1時間5分（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第20話「オーケストラの響き」	18,19, 20,21, 23,24, 25,29	オーケストラは独自の響きを持つべきではなく、作曲家の響きを出さなくてはならないことを逆説的に解説。バーンスタインの意図に対応できるオーケストラの各楽器メンバーたちがスゴイ！	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]フランツ・ヨーゼフ・ハイドン：交響曲第88番ト長調Hob. I - 88『V字』〜第2楽章「ラルゴ」、クロード・ドビュッシー：管弦楽のための『映像』〜「イペリア」より第3楽章「祭りの日の朝」、イーゴル・ストラヴィンスキー：バレエ『兵士の物語』〜王様の行進曲、アーロン・コーブランド：バレエ音楽『ロデオ』〜ホーダウン[収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1965年12月14日[映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／1時間5分（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第22話「4分の3拍子に乾杯」	25,26, 27,28, 30	ウィーン独特の3拍子の舞曲（ワルツやメヌエットなど）をウィーンで活躍した作曲家の作品でわかりやすく紹介。若き日のクリスタル・ルートヴィヒとヴァルター・ベリーが歌うマーラー歌曲は必見。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ドイツ舞曲第3番ハ長調K.605-3『そりすべり』、グスタフ・マーラー：歌曲集『子供の不思議な角笛』〜「ラインの伝説」「魚に説教するパドヴァの聖アントニウス」「骨折り損のくたびれもうけ」、リヒャルト・シュトラウス：楽劇『ばらの騎士』Op.59〜ワルツ[出演]レナード・バーンスタイン、ニューヨーク・フィルハーモニック、クリスタル・ルートヴィヒ（メゾ・ソプラノ） ヴァルター・ベリー（バリトン） [収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1967年12月25日[映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／1時間（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』第24話「バレエの中の鳥たち」	25,26, 27,28, 30	チャイコフスキー『白鳥の湖』とストラヴィンスキー『火の鳥』という2つの鳥を題材にしたバレエ音楽。19世紀の古典バレエと20世紀初頭のバレエ・リュスの音楽をわかりやすく解説。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック[演目]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：バレエ『白鳥の湖』Op.20より、イーゴル・ストラヴィンスキー：バレエ『火の鳥』組曲（1919年版）（「イントロダクション」「火の鳥とその踊り」「王女たちの rond」「カスチエイ王の凶暴な踊り」「子守歌」「終曲」） [収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1969年9月14日[映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕／1時間（番組枠）